女學雜誌

一冊六錢

各土曜日發兌

第百九拾三號

當府内無郵税

郵税五厘

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 193. CHRISTMAS, 1889.

EDITORIAL :—Woman's World in the 22nd year of Meiji.

LEADING ARTICLES: The Year is Going (Bokei). The Reformer and the Christian.

CRITICAL NOTES :—Mr. Aiba's Style of Prose-writing. (Fuchian). Ruroshi's "The Life of a Flower." (Tekiten Josen).

MISCELLANEOUS :—The Closing Year (Shōson). Introduction written by Mr. Iwamoto to the Collection of Addresses for the Young Men's Anti-prostitution Association. Novel-writing is no Play of Words. (Shoradō). Women were Educated in Antiquity. The Literati of To-day are not Silent. (Kisenshi). A Christmas Story.

NOVEL :—The Italian Beauty. (*Concluded*).

CONTRIBUTED ARTICLES :—Farewell to the 22nd Year of Meiji. (Kunikida).

OPEN LETTERS :—A Letter to the Members of the Tokyo Local Assembly.

NOTES ON THE NEWEST ISSUES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

SINEC OUR LAST ISSUE.

第百九十三號目錄

社説　明治廿二年女學界

論説　年暮の感、冷月、愁雨、（墓京外史）○婚風家、宗教家（絹川漁夫）

批評　饗庭篁村先生の文章（不知庵主人）○柳浪子の花の命（謫天情仙）

雜録　歳暮（椙村居士）○上毛聯合青年會廢娼演説集の序（巖本善治）○小説は遊戯文字に非ず（松蘿堂主人）○昔の女は學問があつた○今の文學者は默せず（其川子）○クリスマス子供の談（人形の怪物）

小説　伊太利の佳人（完了）

寄書　感ずる所を記て明治二十二年を送る（國木田哲夫）

開書　府會議員に與ふる書（神田一書生）○突論十則

時事　クリスマス○讀者諸君に謝す○東京府會の議決○家畜に對する慈善○難義者に惠める古着○天雲淡々○責任論○大臣の責任○濁界清音○板垣伯大坂大會の事○文學さ開化○存娼論

附録　東京府會廢娼事件議事細録

光あれよ

近傍に羊を牧ふもの有けるが、野に居て夜間その群を守りたりしに、主の天使きたりて天の榮光かれらを環り照らしければ、牧者おほいに懼れたり、天使これに曰けるは、懼るゝ勿れわれ万民に關はりたる大ある喜の音を爾曹に告べし、これ今日ダビデの邑に於て爾曹の爲に救主うまれ玉へり。

紀元二千五百四十九年

謹祝主之降誕

西暦一千八百八十九年

女學雜誌社員

太初に道あり、道は神と偕に在り、道は即ち神なり、この道は太初に神と偕に在き、万物之に由て造らる、造られたる者に一として之に由らで造られしは無し、之に生あり此生は人の光なり、光は暗に照り、暗は之を曉らざりき。

Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女學雜誌 第百九十三號

明治二十二年十二月廿五日發兌

社説

○明治廿二年女學界

世の中の事は万事意想の外に出るあり、斯からんと思ひしとは遂に然からで、夢にも思わざりしと忽焉として現われ來る、實に人間は暗路をたどる盲人の如し、われ卓見ありと云ふものも僅かに一二歩の前を窺ふに過ぎず。左れど顧がへりて過來し方を顧みれば、條理整然として見ゆ、蓋し一事の起りしには必らず其元因あり、亦た一事の消え失するにも必らず其由緣あり、何物も決して猥りに存亡興敗するとあき、喩へば大風の吹荒れたるが如きか、風は勝手氣儘に吹拂ひ當るまゝに家を倒し樹を拙くに似たれど、靜かに其吹通りたる跡を見れば一條の路ありて存す、他なし其風は起るべきの故ありて起り亦走るべきの故ありて走り到底其の當に行くべきの方向に向つて通行したるものにてある也、人生年々の事亦如此し、吾人年を送りて一歳を顧みれば、明白に此の坦々たる大道の通路ありしとを認たむ。

二三年前より女子教育と云ふと一と方ならず流行し、如何なる人も其の賛成家となり議論家となり尚ほ教育家ともなりて、女學校女學會の起り生ずると雨后の雜草の如し、吾人は必らずしも之を喜こびとせず寧しろ苦々しきとの樣に思ひて、久しく特更に高論せず、只だ實着に因循に女學を講じ居りたるとなるが、昨年の末頃よりは天下の形勢殆んど一變し、最早改良論教育論などは漸やく旗を卷くの氣色とありしかば、吾人流行の風の將に吹き止まんとするを見て喜びに堪へず、眞正の女子教育は正に之よりこそ初まるべけれと望み居りたり、左れば本年第一號の新報第一項に於ては「今年は國會開設の準備にて極めて多忙なるべく、隨つて女海の波は尤も沈靜あるべし、然し此波の靜かなる時に船を行るとぞ第一の樂しみなれ」と預想したるが、實にも本年は女子教育に付きて流行と云ふべき者の在りしとを聞かで、只だ其教育の根を固むるに足る數多の大事件を起し來りたり、故に本年中に於て女學校女學會の新に出來たるは甚はだ少數にて、婦人の讀むべき雜誌も「國の基」を除く外か只だ二つ三つの新らしきを出せしのみ、文章にも、演説にも去年及び一昨年に於ける如き目に立つ花々しき女學論は出でざりしとあり。

先づ○○一月には、印度女學士ラマパイ渡來の感化尚ほ盛んにし

て、其頃は人々專ら此事を話し合ひしが、同時に曙女史、竹柏園女史など云へる女小說家も世に出で來りて、前の湘煙、花圃、秋月の三女史に列び、女性文學者の名聲漸やく世に聞ゆることとなれり。〇〇二月には廢妾論の主唱者たる森文部大臣不幸にして兇徒の手に罹り沒し國中の心ある女性をして痛歎せしめたるが、同時に亦た東京府會に梅毒檢查病院を廢すると、並に娼妓賦金貸坐敷賦金等を廢減するの議起りたり。〇〇三月は賦金全廢の事よりして賄賂事件と云ふ醜聞漸く起り來り世上何んとなく動き初めたるに、〇〇四月「國の基」出で、〇〇五月より彼の思ひ出すだに快ちよからぬ高等女學校醜聞の大評判となれり、但し皇后陛下の御誕辰を奉祝するとに付きては前年に比類なき程の忠節現はれ亦た一派の女臣よりして陛下に聖書を獻呈すると、並に教會內に女子會吏を創置するとなど皆な此の五月中に於て起れり。〇〇六月には婦人白標倶樂部、獨立女學校などの計畫初めて現はれたるが、之よりも更に賀すべきは一夫一婦制の建白を爲すと續々として行はれたるとなり。〇〇七月には醜聞事件漸やく收まり、人々女子教育に付きて篤と熟考するやうに成り、日本及び朝野新聞などは特に其法案に對する文章を募るに至れり。〇〇八月より十〇〇月末に至る迄は、條約改正論の氣焰猛烈にして、万民に其他の餘念を與へず、女學上に於ても何の變はりしとなくて打過ぎしが。〇〇十一月に至りて、群馬縣の靑年等廢娼の事を絕叫し、之よりして各地に響き應ずるもの聞え、遂に目下の大輿論を惹き起すに至りしなり。

左れば、明治二十二年女學會の大事件は、之を四季に區分し、春に於てはラマパイの事あり、夏に於ては醜聞風說の事あり、秋に於ては一夫一婦制建白の事あり、冬に於ては廢娼建議の事ありと云はん。左れど之を要括すれば、明治二十二年は女子教育の上、及び男女交際の上と云ふ二個の緊要項目に對し、著るしき確實なる進步を與へたりと云ふとを得べし。高等女學校の醜聞は、事實皆無なりしとを確かめ得べきの今日より見て、女子教育の上に大ひなる益を與へたりと云ふとを得、當時此の風說の一と度び世に傳はるや、万人皆な冷眼を構へて嚴しく各女學校の景況を吟味し、從來放任し置たる過度の男女交際をば此時極めて嚴密に酷評したり、左れば二三年來何事となく西洋風に心醉し、要もなきと迄に只管外國の樣を眞似、人々の心柄余程鬪鹵になり居りたるが、此時俄然鐵針を頭上に刺れて用心發明する所ろ至つて多く、扨はと氣

付きしもの誹し少かるまじ、其樣春陽未だ來らざる冬天の暖かき日、小春心地に浮れて梅蕾漫に芽を破らんとするとき、忽まち嚴霜の降るに遭ふて時節を待たざる可らざることを觀念したるに似たり、當時は火口に火の附きたる如くに風説傳流し、凡そ女子敎育に從事するものは一人も淸きものなく、女學校に出入する書生には一人も操あるもののなき程に聞えたり、啻に左樣に聞えしのみにあらで、實際左樣に思ひし人もありつらんが、既に今日となりては万疑去り、事平穩に歸して、實相明顯たり、最早何人も左樣に思ふもののなきのみか、其本元たる高等女學校に於ても決して毫末の醜事だにあらざりしとの確信せらるゝに至れり、眞に一時の雷雨にして雨霽るれば一天快晴し反つて前よりも快ちよく覺ゆるの狀あり、女子敎育に浮れて流行に流行を逐ひし淫男は此時より手を引き、又た暴りに歐米に心醉したる風習は余程に悔改し、浮足にて進み來りたる女學はヒタと安坐し、女學校の基礎初めて確立し、女學生の覺悟も初めて堅固となれり、故に五月以降七月に至る醜聞事件の恐慌は寧ろ女子敎育の上に於て甚大の益を爲したり、明治二十二年は何事か女學に大功を奏すべしと思ひ設けたるが、其の方法の如此にてあらんとは、寧ろ一驚を喫するの事にてありける。

扨又た、男女交際の上に付きては、本年は是非とも目下の輿論を起し來るべき道線にて在りしあり、昨年十二月の末の事なり、熊本佛敎の信徒或る娼妓を身請して本願寺に献上したりとて物論大に起りしことありしが、從來斯る例し屢ばこれ有ればとて世人何とも申さゞりしに、此時に至りて斯る評論の現われたるは既に民情の一新したる兆しにてありける、左ればー月に至り、維新以來妓樓を禁止したる和歌山に於て再たび娼妓を公許せんと論ずるものあるに際し、世人は太たく聞き苦しきことに思へり、二月十一日憲法發布式の日、吉原の娼妓數百人白襟にて連車し堂々として往來を練り行たることあり、吾人は嚴しく之を筆誅したるが、世人は此等の景色を見て多少不快を感じ文明の爲に恥かしきことと思ひしなるべし、於此乎赤十字社は特に各支部に注意して娼妓がましきものゝ入社を禁制したり、四月に至りては伊勢古市の妓樓油屋おこん以來の名家は其主人貸坐敷營業を恥ぢて悔改するを以て斷然商賣を變たり、之より先き二月五日及び廿一日の府會に於る梅毒檢査費弁に賦金に對する各議員の討議には、眞に純潔を極めたるの淸論多かりしかば、其筆記は明らかに世に公けにな

りて大に世人を感動せしめたり、加ふるに六月東京婦人嬌風會員が一夫一婦制の建白を主呈したる以來、神戸に、大坂に、西京に、横濱に、千葉に、金澤に、高知に、函館に、札幌に、續々として同志同樣の建白者出で來り、一夫一婦の制を淸くし、姦淫の惡風を壓止するとに付き非常の感動を與へたり。夫れ、昨年末、及び本年春以來に於て男女交際の事に關しては如此く氣運を促がし來れり、况んや義人の泣き叫びは數年前來殆ど一日の如く、但だ日を經るに隨つて其の聲彌々高く聞え來りしかば、十一月には彼の醜陋者も多く禁止せられ、又群馬縣に於て非尋常の廢娼大運動勃興し、同じき廿六日には群馬縣會に於て、大多數を以て廢娼建議呈出に可決し、之より福井縣會に、長野縣會に、東京府會に、神奈川縣會に、埼玉縣會に、續々同樣の發議あり、又大坂に於ても、岡山に於ても、愛知に於ても、仙臺に於ても、近日同樣の計畫あらんとするに至り、府下には廢娼の演說屢ば之れ有り、又廢娼會、廢娼壯年義會、廢娼同盟會等の結合將に大に起らんとするに至りたると、皆是れ男女交際上の道德大に淸まらんとするの前驅にてある也。

吾人は女學上、明治二十二年の功勳莫大なりしとを認め、謹しんで其勞を謝し、日本女生に代りて玆に其の退隱を送る、願はくは汝が相續者、よく汝ちが志を繼ぎ、今后一層汝ちが功績をして大に且つ有益に至らしめんとを祈る。

論説

○年暮の感

京都　慕京外史

冷月

夜は已に更けぬ、人は靜まりぬ、車聲も亦止みぬ、世自ら寂寥たり、獨座、寒燈に臨みて茫然、眠れるか眠れるに非ず、覺めたるか、倘夢の如し、出て窓外を望めば、月は半天の上にあり、空高ふして、氣淸し、風高ふして笛聲爽かに、天冷にして、雁聲尤も悲し、然れど、今夕は之れ、良月の夜あり、月は无塵の蒼空に浮んで、千里遠く皎かあり、月は同じ、之れ古の月、今夕の月に於て、何の異なるあらん、一年、十二度の圓、十一の圓は、余之を看過ぎぬ、今の月は是れ、今年の終の月、此の夜を明くれば、今の歲、此の月は再び見る可からず、嗚呼、明治二十二の、末の月、余の心膽を冷かならしむ、無情なる月、有情の人を殺す、月も亦有情なるかな、嘆息して戶を閉ぢ、臥して又た古人を夢む。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

愁雨

余か學窓の側、一老松樹あり、深夜聲す、悚然として怪む、是何物そ、老松は默して、依然たり、只た降る雨の發すのみ、偶寒雨人を驚かす、无情の雨又た有情の余が、夢を覺さしむ、雨降る夕は眞に淋きものなり、笛の音も、雁の聲も、亦濕氣を含み、何となく徒然の樣あり、我れ無情なるか、雨の夜、何ぞ愁ふるの甚しきや、悲しむの酷しきや、然れは、我、有情の者なり、雨、我を悲しましむるに非らす、我、雨によりて愁ふるのみ、冬の夜は短かし、雨降る今宵は、最と長がし、實に雨降る晩は、天地、寂として言なきが如し、然れと、言はさるの天地は、余をして、言はさるを得さる、感情を與へたり、嗚呼、我多情子なるか、實に今夕は、余の心、靜まり、淸き心も、汚たる心、兩つなから、之を悟らしむ、其の時は、光風なり、霽月なるものなり、利なく、名なく、空々自ら、神、沈づむ上天の攝理、豈に工なる乎哉、余をして、不言の下に感せしむ、雨聲、微々たり、感情、悠々たり、思ふに、今の雨は、十二月の雨にして、春陽を迎へんとする、寒夜の愁雨あり、余、千里、天涯の孤客をして、父母を想はしむ、是を聞て、情夫を慕ふもあらん、是を聞て、情を、北風に托するもあらん、然れと、是を聞て、筆取れは、「偶聞今夜雨聲微 是又梅花招人兆」と云ふへきのみ、嗟、无情の愁雨、我を驚殺せり矣、雨も亦た有情なるかな、

是なり矣、等く末年の月、歲暮の雨、余、端なく彼の爲めに、慨然たり、顧みれは余か今迄て經過し來れる一年は、實に、月の夕と、雨の夜なりし、月明かなるも悲しみ、雨暗きも亦た泣く、味氣なき浮世にこそ、无情なる日と月は、遠慮なく余を墓所に、誘はんとす、一より十一に、進み來りし日も、其の時、輝く月も、其の節、降りし雨も、同しく、悲愁を含みし、月雨なり、然れと、今月の今夕の月雨に比すれは、喜び尤も多かりし、否な寧ろ是を覺らさりしなり、然れは人間は无情なるものかな、抑も人間は、愚痴なるものに非ずや、十一回の雨、余之を愁へす、十一回の月、悲します、只た末の雨、暮の月、獨り之を悲しむ「日月匆々迭賓送、浮世堪驚老已成」と詠ひし、放翁の心も又た死理には、非らさることそかし、日は一日と老の身に近くなり、月は一月と衰境に近くなり、人生の歡樂、幾干かある、人生の希望、何處にある、人の働きは何の爲か、歡樂とは何を云ふ、幸福とは何をか云ふ、十二の月に悔ゆ可き一年は、我何の爲に動きしや、我に問ふも我知らす、此の世の榮華、何處にある、今年は已に、空に動き、空に泣き、空に叫ひ、空に憂ひ、空に笑ひ、空に躍りて空を得たり、又た來る年も、左あらんか、无情、無趣味の浮世なるかな、

義人の歌に曰、名は美膏に愈り、死日は、生る日に愈る、哀傷の家に入は、宴樂の家に入に愈る、其一切の人の終、如斯なれは

なり、生る者も亦、之を其の心に止るあらん、悲哀は嬉笑に愈る、其は而に憂色を帶るなれば、心も善に向ばなり、賢き者の心は哀傷の家にあり、愚かなる者の心は喜樂の家にあり、賢者の勸責を聽は、愚かなる者の歌詠を聽に愈るなり、と然れば、愚痴なる者よ、來りて智者の歌を、聞くべし、人生は有情、有趣、多味なるものなり、春の日も、夏の夕も、秋の月も、冬の雪も、皆な笑を含みて、人間の前途を祝するものあり、痴者は、無情雪月雨花の、眞情を覺らざるなり、是を知らざるなり、求むれば得、働かば得らる、誠に有情有味なるに非ずや、希ふ事叶ひ、思ふと遂ぐ豈に有情の天地に非ずや、志す所成り、進む所達す、何ぞ無情の乾坤と、云ふを得べけんや、夫れ明は快き者なり、我目に月を見、日を見るは尤も樂し、我か耳に雨を聞き、音樂を聞くこと、尤も歡し、天地は有味の天地、實に歡樂の天地なり、

思に今年は彼等の樂あり、此等の悲あり、悲愁の來るあり、歡樂の來るあり、實に得る所、無一物、空中に空過したり、嗚呼我已に、人生の四分の一をば、等閑に過く豈に悲からずや、然れども、余は青年なり、余は紅顏の青年なり、軀五尺に不足るも、又た一の希望を有す、今日は多望なる余なり、余は實に白面の書生なり、然れども希望を有する書生なり、人生の中、歡樂を有するもの今日の余なり、青年の余あり、嗚呼此を思へば、余の胸中には、悲歌なく、哀歌なく、愁聲なく、憂憤なし、世には賴むべきものなし、余の賴る所のものは唯だ一の、上天と希望とのみ、余は優々として此の二十二年を送り、國民多望の來年、明治二十三年の曉、速に明けんことを待つものなり矣、

○矯風家、宗教家

絹川流夫

アー此世界は如何なる世界なるぞ聖善の天使は一隅に退縮せられて邪惡の魔鬼は各隅に横行しつゝある世界なる哉酒鬼の横行するあり婬蛇の出沒するあり貪欲の魔鬼驕慢の魔鬼隱現するあり利己の惡靈情欲の隱靈暴行し恐恨狐疑の惡氣充滿し戰鬪殺戮の沃氣張溢するにあらずや實に我日本帝國も神洲と云ひしは昔の夢にして今は內外の惡魔相和して暴威を逞ふする惡鬼の一大工塲たるを免れざるなり良民たる者誰か之を見て悲慨せざるものあらんや本心ある者誰か之を聞て痛嘆せざるものあらんや夫然り然るが故に當代の志士仁人たる者悉く此等魔鬼を我國境より放逐し既に已に因襲し來れる惡習邪俗を改革し盡さんとに苦心焦慮するに至れる所以なる歟彼禁酒會の如き矯風會の如き万國平和會の如き又近日起り來りたる

廢娼會の如き會合の續々起り來り之が機關新誌の數多發刊し來れるは之が著るしき徴候に非ずして何ぞ此の如く現今起り來れる矯風事業は果して其目的を到達し得べきか是吾人が討議せんことを欲する所の事にして又平生該事業の愈々進歩擴張せんことを切望するものあるが故に茲に聊卑見を陳述せんと欲す。

凡そ事業と事業家の資性とに最親密なる關係あることは固より當然の事なれば矯風事業と矯風事業家とに於ても亦然りとす誠に矯風事業は矯風家の資性如何に由つて其盛衰を卜すべく其興廢を知るべきなり矯風家にして若し其當を得ざるか該事業は必ず退歩すべく矯風家にして其當を得るか該事業の進歩すべきは明白の事理なりとす若し夫れ矯風家たるものにして一方に於て廢娼の演説をなしながら他方に於て宴會に飲酒をなし一方に禁酒論を唱へながら他方に登樓娼妓を買ふが如きあり一方に貪欲の不可を説きながら他方に傲慢の擧動あるが如きことあらば其結果果して如何なるべきか只其事業家の資質惡かりし爲に該事業の衰退を來らしむるは明亮なるのみならず却て敵軍に勝利を與ふるや期して待つべきのことなりとす之に反して矯風事業に從事する者にして其當を得るか該事業は其勢旭日の東天に昇るが如く愈其光輝を增加し遂に我日本帝國の郡縣には一ケの酒店もなく一ケの妓樓もなく一の「ドランカード」もなく一の遊冶郎もなきに至るべし彼米國は該事業の最も進歩せし國と聞る所あるが現に彼國の州郡にして一ケの酒店もなく一ケの妓樓もなく一の「ドランカード」もなく一の遊冶郎もなき處數多ありと云ふ是豈我日本帝國に於てのみ難きの業ならんや只其難易は矯風家の資生如何にあり然らば則ち矯風家の資性は如何なるものにして可なるべきか又如何にして此資性を得べきか又吾人は矯風事業に對して如何なる關係を有すべきか是亦學ぶべき價値あるのとに非ずや蓋物質的有形的の事業家にはいざ知らず苟も心靈上風俗上の改良進歩を企圖するの人に於て欠くべからざる資性は寧ろ智識上の資性よりも徳義上の資性なりとす矯風家たるものは勿論凡ての惡徳を消極して凡ての善徳を積極するの人たるを要するなり古來苟も心靈上の改革をなし風敎上の改良を施したる人は必ず此徳性ありしなり上古にありてイスラエル國民はエホバの神を棄てゝバールアシラの偶像を崇拜しモーセの五經を誦讀する代に偶像を讃むる唱歌を歌ひ國法を守る代りに異邦人の子女と婚嫁し不敬虔の惡徳姦淫の空氣至る所に充實

せる時に當りて一朝之が改革の業を成功せし彼エッラチーマーの徒は己れ完備の德性ありて然る後にイスラエルを既倒に復興したるならずや近世にあつて万國に矯風の主義を擴張する士女は自家能くかゝる德性を具有して自然之を言行に發光するが故に天下は漸々之に化せられて其狀恰も原野の草木が一陣の風に靡かさるゝが如きにあらずや德性の光輝愈偉大高潔鮮明なれば愈發表して万邦万世に照臨するものなり孔子の支那の蠻風を改良せしも彼能く克己復禮したるが故ならずや釋迦は己先づ隱遁制欲禁情の修業をなしたるが爲に亞細亞の光となりしにあらずや彼完美十全の言行を備へ万邦万世の師範と仰がれ人類の救主と尊ばれし基督は今尚世界全面を風化しつゝあるにあらずや。

抑も矯風事業は天下の大事なり万世の偉業なり矯風家は大改革者なり大建設家なり故に其會合の主道者たり其新誌の記者たる者は是非共之に專任せざるべからず然り然りと雖も其他の矯風家たる者は他に專業のある者即ち官吏學者政治家宗教家農工商諸民にして兼任することを得るものたるなりされども苟も之に從事せんと欲するものは事業の偉大は即ち偉大なる故に前項に述べたるが如き德性の十全なるものたらずんバ其任に堪ゆべからざるなり豈半錢矯風家の企て及ぶべき處ならんや空想的社會學者の爲し得べき處ならんや吾人は我國に於て矯風事業の未だ勢力なく眞正の矯風家の未だ輩出せずその顯はれたる矯風事業は幽靈の如くその所謂矯風家は獨立の節操に乏しく半錢矯風家に依賴し空想的社會學者を崇拜する者多く我國矯風事業の前程甚だ危殆なるを知る吾人は未だ那邊に眞正の矯風家の潛伏しあるか那邊より矯風主義の忠臣義僕の出づべきかを知らず現に幾多の矯風家中に於て有志家中に於て合當の人物あることとなるべしと雖も眞理の未だ擴張せられず道德の未だ振張せざる我帝國の現時に於ては殊に多數の矯風家を要するは勿論の事なりと雖も寧ろ其數は少々なりとも誠に德性ある矯風家の出現を熱望するものなり即ち雞群よりも寧ろ一鶴を屬望せずんばあらず夫れ此德性ある矯風家は何より之を得べきか又果して之を得るの望なきとなるか。

此事に就ては社會又自ら公論のあるなるべしと雖も吾人は實驗に於て完備の德性は只完備の宗教の產物なることを知る必ずや完備の德性は彼暗黑世界の思想に富める神道家より出でず迂遠なる儒學者より出でず怪疑的妄想的極めて暗澹たる彼佛敎僧侶より出でざることを知る吾人は實驗に於て完備の德

性ある人士は獨り彼基督教信徒より出づることを知る彼眞神を信じ彼基督を篤信するものを見るに積極的德義に於ては未だ其佳境に入らざるものあらんが消極的德義に於ては十全なる人物數多あるにあらずや彼等は一方に一の善を説き他方に他の惡をなすが如きことを敢て爲さゞるなり彼等は少も酒を飲まざるなり彼等は一人も娼妓を買はざるなり彼等は更に暴食せざるなり彼等は毫も貪欲にあらざるなり彼等は利己にあらず彼等は傲慢にあらざるなり彼等は誠に此の如きなり彼等は容易にかくあり得るなり彼等は一意眞神の聖意を奉じ專心義となり聖となり只管上帝の子女たらんことを熱望しつゝあるものなり其確實なることは彼等無言の行爲に由つて保證し得て餘蘊あり又其然ることは既に識者を待たずして万人の目擊しつゝある所にあらずや然らば則ち彼等は獨り矯風家の要性を具有するものにして又自然に彼宗教家は矯風家の實效を奏しつゝあるものたるは疑を容るべきにあらず吾人が矯風家の資性は彼宗教家の專有なりと公言することを得る所以又是にあつて存するなり此故に矯風家は宗教家に由らば成功疑なく若し又宗教家に由らずんば成功を期し難し猶ほ善果の善樹に由りて結ばるべく惡樹に由りて結ばれざるが如し。

吾人は既に矯風家の宗教家に依るべき所以を知れり茲に吾人は亦矯風家と宗教家と相携提するの利を知るなり何となれば彼等は名に於ても實に於ても同性同質たるが上に又其共働の利なる實驗を得たればなり彼矯風家は何人ぞ人性の創造家に非ず人性の改革家たり彼宗教家は何者ぞ仝じく人性の創造家に非ず人性の改革者たり彼等互に同質同性たる以上は互に有無交換する以上は矯風家は宗教家と相携提し宗教家は矯風家と相携提して利する所少からざるべし且又矯風家は宗教家とならざれば合當の資性を受くること能はざるを知り宗教家は矯風家とならざれば自家の志望を擴張する便宜を失ふとせば互ひに携提して兩者一躰となりて運動するは彼此の得策たるは辨を待たざるなし否彼等の得策たるのみならず實に彼等が義務たり責任たるなり然ば凡ての矯風家は宗教を信ずべく凡ての宗教家は矯風事業に從事すべきなり是彼等焦眉の急務なるにあらずや是に於てか吾人は泰西諸國に於て矯風家は宗教家となり宗教家は矯風家となり相携提して運動し矯風事業宗教事業に長足の進歩をなし矯風的宗教的の光輝赫々たるを致せるの至理至當なることを認むるなり寄語す帝國幾多の矯風家よ卿等宜ろしく熱信なる宗教家となれ帝國幾多の宗教家よ

卿等悉く篤實なる婚風家となれ卿等よ卿等の同胞の如く夫妻の如く相携提して他日大日本帝國に宗敎事業婚風事業の實効を奏し東洋の最東端に於ける全善全美なる國家を形られよ是果して幾年の後に目擊することを得べきか其遲速は只卿等が執意の良否と實行の勤惰如何にあるなり卿等の意向果して何にありしか又卿等の去就果して何にあるか吾人は切に卿等が此に出ずして彼に出でんことを是吾人が卿等に望み亦上帝に向つて祈る所のものなり噫。

批評

○饗庭篁村先生の文章（下）　　不知庵主人

むら竹第七卷中「魂膽」第一回に左の一節あり、

「（上略）手は菱潭の板本流をよく書きて手紙を受取つたものを驚かし語は通辨自在といふ對譯にて英佛に通じ貴君の御兄弟はと問ふ處も君のブラザアはと顋を撫で落語家仕入の通言を覺へ小說雜誌の穴を穿ちて是ならそれもやらふと云ふほどの文才あり下卑たる遊びをなし友達に割を喰はせるをもて手柄とし人をかつぐを以て智惠とす（下略）」

今日若檀那の地位にあつて是を見て耻ちざるもの果して幾人かある「耳袋」に大通の讃歎ありしが是にもまさりて面白くぞ思はる。又新小說第十七卷「當世大風呂敷」第五回などは字々悉く冷笑嘲罵ならざるはなし、

「（上略）まづ其題號といッは一派特別の題さ「鼻くた物語」ナント驚きませう世間の驚ろく所が此方の悦ぶ所さ全躰小說を日出たいもの奇麗なものにかくと極めた樣に思ふのが誤りだ斯ふ申すと君の著述や批評の原則に牴觸するかも知れないが君のは自ら君の手法があつて流俗に阿るでないと云事は昭々乎たりさ唯流俗の奴隸となるものゝ目を醒さふと思ふノサ趣向はまづ鼻くたの婆さんがあつて夫が猫を可愛がつて猫の爲めに身代を潰して零落して末に猫を抱いて身を投げると云ふ其間に全じ鼻くたの爺さんに逢つて斯く鼻くたになるも避くべからざる必至の理だと云ふ問答があつてそこへ哲の粉を少しふりかけた積りです遠からずして日本の美術學校が女湯へ引移る事を知らないで先見のない輩が裸躰が醜いの主人公が不潔だのと云ふのは大に笑ふべしサ既に佛國にも我輩と所見を全ふするゾラといふものがあつて牛の糞の柔らかに落ちる所までも穿つたそふだ（中略）此頃に飴屋の古看板をもとめ額にして俗物を驚ろかしてや

らふと思ふどんな汚ない事を題にしたとて構はない（中略）言文一致といふ便利子ものが發明された今日小説をかゝないものは滊車の便があるに上方見物をしない樣なものだ又かやふに新問題が有るに古格を云つて奇麗なものにばかり取て掛るのは必竟勇氣がないからだ」云々。

是れ文格を異にすれども三馬の輕妙と其歸を仝ふす。其他先生の作を讀めば諷誡に適切なる字句頗る多し、世人先生の文を評して唯滑稽なりと云ひ渾和なりと云ひ輕妙なりと云へども單に滑稽渾和且つ輕妙たらば先生豈に今日の文豪なりと云ふべけんや。殊に先生が眞面目なる景叙の較や巧妙なるに服して先生を以て眞摯なる作家となすに到つては誤れるの甚しき極まれりといふべし、又其眞面目なる事を望むは水邊に立つて山巓を呼ぶが如く到底得べからざるなり、但し得る所ありとするも畢竟先生を誤まるにすぎず。

今の世小説家をもて任ずるもの多く、泰西の文學注入して小説殆んど一新せり。二葉亭嵯峨の屋二君の如き警世的文字あれば南翠外史の如き變幻怪奇的の立案あり、小説界實に人に乏しからず。又元祿の文派漸く昌んにして紅葉山人の如く奇何妙語を吐くものあれば露伴子の如く河水を傾ふけ風霜を挾むの文字を作るものあり、文章界亦人に乏しからず、唯諷刺に巧妙なるもの先生一人なり、世人は先生を以て小説家なりと云へど余は先生を以て諷刺家となす。京傳三馬も亦諷刺家にして、三馬の雜篇は元より京傳の稻妻表紙等も馬琴の諸著に劣る事萬々なり。鳩溪に到つては云ふ迄もなく諷刺家にして神靈矢口渡の作あるも戯曲家と云ふを得ざるなり。

近頃篁林宗なる名目を立つるものあり。余は其歸依者の誰たるを知らざれど、もし徒らに皮相を學びて篁村の文髓を得たりとするものあらば愚の甚しき笑ふべし。殊に其摸倣者愈々多きに到るは恐らく先生の願ふ所にあらざるべし、篁林先生の文字は獨得にて到底他の學び能はざる所と衆人に思ひ切らるゝこそ則ち先生の爲めに祝すべき事なれ。況んや其の好む處に癖して殊更に長處を曲ぐる如きは余の大ひにうらみとする處なり。誰やらの言に諷誡の文字は針醫の針の如しとあり細くとも金にて痛處に透通するをもてよしとす、若し金にて輕しとて鐵製にせば恐らく皮膚を破りて痛苦を増すのみならん。余は又た考がふ、諷誡の文字は電氣の如く細線に依つて全身を動かすべし、もしそれをまだるしとて大高源吾の木槌を用ひば恐らく全身を粉碎するのみ、諷誡の効何かあらん。

先生の輕妙は實に得意の諷誡に適切あり、今更に眞面目たらんと欲して其長處を殺するは先生の爲めに取らざるなり、先生首肯するや否。

○柳浪子の「花の命」　讃天情仙

是も流行の犠牲に供せられてか、四十一頁完の「花の命」出づ。舞臺小いさければ仕打も少し。小説と言へば小説、話と言へば話。取分け別製小本のあど氣無き、九春社洒落本以來の物なり。令嬢受勿論。歳暮年頭、御遣ひ物には至極なる可し。(是では書肆の廣告の如し)。

趣向は樂みから出た無分別、夫れを傍觀する一人稱。「めぐりあい」「あいびき」二葉亭主人に媒介せられ、「大東鬪記」「大叛魁」思軒居士に取次せられたる今日。別段拍案驚奇も致さず。されど學海先生が俠美人中の「予」を依田生自身とせられしに比すれば、失禮ながら立案の差違、上下牀のみならず。兎に角に傑出の趣向、小冊子には過ぎ者なり。

既に傍觀と云ふ。其妙精緻周密に非ずして、模糊奇幻に在り。其處を反らさぬ暗夜の着眼。ぼんやり逢てぼんやり別れ、忽然又ぼんやり邂逅す。其間斷ゆるが如く、續くが如く、東雲に鱗を現はし、西雲に爪を現はす。遊龍法の極意、早くも悟入せられたり。只殘り惜きは葉越に認められた二ッ三ッの星。口悔しきは森の梢、切拔いた月の利鎌。男女の正躰顯はに、無分別の所作事照り渡るは、模糊の妙味損する出過者。雲の吹流し、太陽の先陣導くまでは、耳に全く萬事を委ね、それより徐に刹那を追て、明瞭にせられたらんには、奇幻一沙なる可しと我は存ずる。

されど模糊とは文章に付て申すなり、事實は其中に自ら明晰ならざる可らず。さは言へ、彼一語我一語、嗚嗚咽咽、見つめた男の眼、背けた女の顔。互に描くだけが明晰ならず。評者申す所は全く異る。最も緊要なる心中の原因、死なればならぬ痴情の基。幾個の波瀾、幾箇の障碍。添れぬ樣に此世を落なみ、白露に身を置くまでの道行。諦めて賜はれれば、是で死を玩ぶ痴呆の戯れと思へば思る可し。

「嘸奥樣が惡…にく…惡い女さ…御恩に…あれ程御恩になつて…それに此…濟みません…」(廿四頁)

「…お前が私の母親に濟まぬと御言なら…私もお前の兩親に申譯が…」(廿五頁)

是で二人の運命を明瞭表示せられた者とは受取れず。惜い哉。惜い哉。馬手指し思ふた錦の袋。開らずもそれが卒業證書。失望した兩人の顔。是で雅洗はれたは小細工に過た趣向。「風雅娘」の翁の一軸は滑稽物なる故。黄絹幼婦の月旦異論無けれど、悲劇にては茶番じみて好からず、小説の妙處、爰では有るまじと思はる。文躰は相かわらず言文一致ながら、獨よがりの遊戯無し。此處「殘菊」にも勝つた出來。然さひつこき處有れども、「二タ面」よりは大きに樂なり。「文庫」の廣告に敵を生じた、春頃の御作とは思はれぬ筆力。恐る〳〵。

口繪一禎、是ぞ絃外の琴聲。文と相待ち。妙言ふ可からず。挿繪を手玩と同視して。無きを大人ぶる先生方。一服煎じて召上ッては。

事の序で、評者兼々望む所、一言仕らん。抑旨く人情を寫し、巧に世態を穿ち、前後の照應、因果の關係、説き去り説き來り、讀者の同感を無の跡に導く。是ぞ小説宗本來の眞面目。されば長きが善し短きが惡しなど、八釜しき規則無きは勿論なれども、今時の短篇、流行に後れぬを目的とする故。ほんの坐興の一口話。何の照應も無く何の關係も無き者とへ有り。幕外の仕出しばかりで一幕、緞帳芝居にも有るまじ。是では讀者の佳境に入る折無れば、感情筆で動し得可き。流行。此弊矯めではと思ふ矢先。此書世に出で。獅子兎を搏つ、亦全力を用ゆる意氣組。時流を救ふ一法なれど、願ふは更に長篇大作、全力猛虎を搏ち。矯正の旗風翻し、一蹴いでや揮ひ玉ひてよ柳浪の君。　妄言多罪

雜録

○歳暮　梢郁居士

年玆に暮れて、世は何とやらん忙はし。夕暮近き頃、吾れ窓に凭りて、差し覗けば、往き來ふ人々皆な急ぐ。或は提燈ふり照らして、帳面肩にかけたる。或は二輪の車グワラ〳〵と牽きて、犬に氣づかひ、雛に危ぶむ。或はステッキと云ふもの提げて、肩ゆすぶりつゝ、睨め廻はす。或は八字の髭捻りて、何事ぞと言はぬ許りの顔して通ほる。嗚呼「群聚の街衢」!

汝の胸中には、喜びも有らん、哀しみも有るべし。不圖、行き逢ひたるは二人の乙女。ショールに包まれて、迭みに笑み、「何處へ」？と問ふに、彼れも我れも同じやうな答へ。—叔父の宅に行きて、骨牌遊びに、今夜を明かさんとてなり。それは年毎にせる習はし！親戚兄弟皆な集まる。—とぞ言ふなる。偖も樂しき！「待ちね、暫らく！」と呼びかけられて、ふりむけば、アラ家主！早速の手練！「唯今質屋まで」と答ふ。偖も哀しき！不圖、落ち合ひたるは二人の少年。寒さに頬を赤ふして、「近頃は何う？」と問へば、—「福引の趣向に弱はる」。名案なきやと問へば、—ハテ吾れも其事！と話しにならぬ答ふ。偖も樂しき。「母上、妾が起こします。捨てゝ置て下され」と、飛びつく娘に、「此上、お前に世話かけては、誰れシッとして居られやうぞ！」と、ハフリ落つる涙、はや瀧津瀬！押えても生憎報らす、消える火の音。偖も哀しき！。正月嬉しいとて、喜ぶは子供！三十日困まるとて、嘆くは親！三十日の事ゆゑ、賜菊にあらぬやうの簡辨、一同洗湯へと、出て行く家内連の一行。—程よく暖りて、家に歸らば、必ず蕎麥の用意は整ひ居るべし。霜柱ザク／＼と蹈みしだきて、「殊更に今年は寒し！」と、つぶやきながら、鼻啜るものは、—彼れ歸りても、炬燵の火は消えてあるべし。門松、〆飾など担げて、笑ましげに通ほる人、—其人の行く先問へば「醫者へ」と答ふ。……ハテナ屠蘇袋の御無心か？鹽鮭手に提げて、歳暮の禮回りする人、今夜は早くより稲積まうとは、ナモ無理な事！今は日も暮れ、眼も勞く思へて、臥床に入れば、ムラ／＼と人々の顔、胸に寫りて、能くは眠れず。隣りの間には大業な相談！「心臓を切らう、金剛石を探らう」と云ふ聲。—それ已みて後ちは、フースーと火を起こす呼吸の音。—頓がて鼾、齒軋。—其次は空飛ぶ雁が音。—其次は二更の鐘。—其次は、犬の遠吠。—其次は何も聞えず。恐らくは吾れ其時に眠れるあらん！。

○上毛聯合青年會の發兌廢娼演説集之序

日本古來未だ曾て廢娼の論盛んなりしとを聞かず、其の之れあるは實に明治年間に始まる、而して明治年間に於て未だ今日の如く其論運の隆んなるものあらず、今日は正に是れ廢娼論勃興の機にして滿天下姦淫の空氣を拂ひ去る第一風の吹き起る日なり、皇統連綿として二千五百有餘年を積めり、然れども娼を廢し姦淫罪を滅し一夫一婦の清徳を斷行するの紀元あるは恐らく今明年にてあるべし、夫れ此の如き時運は皇土

開闢以來最始の出來事にして、唯之あるを以て既に后代に對するの面目あり、然るに之が爲に卒先したる人々の青年男子諸君たるに至つては、啻に本邦建國以來に絶類たるのみならず、万國に其例を求めて毫も聞かざる所也、當世の光榮何ものか之に若かん。

嗚呼縣下二十有餘の青年團躰万事を擲つて一和合結し、千三百の年少諸君恰かも一躰の如くに協動し、疾呼し、絶叫し、滿腔の忠誠を吐出して不潔空氣を吹き消さんとするは抑ろも何等の美事ぞ、生之を石嶋亘三郎君より傳聞す、此青年諸君が縣下の所々に遊説するや、其携ふる所ろのものは、胸中鬱勃の精神の外か、唯だ草鞋握飯のみ、山を越え、水を亂り、全縣下を周走して到る處ろに宣言す、或は日に三四回の演說を爲すもの少なからず、演説會と演說會との間には少年細馬を驅つて奔走傳報す、彼の妓館ある地に至れば、大凡そ一里四方を閉み廻ぐり説いて民心を動かすと、其英氣如此く猛烈あり、然れども規律整然、進退肅々として會員中毫末も粗暴の氣を呈することなし、於此乎沈着の人、老壯の人、亦多く賛成を表し、民心大抵傾斜し、遂に全縣下の輿論となれり、縣會議員此輿論に随つて遂に娼妓全廢の議を可決し、知事に建議し今ま其認可を仰ぎ待てり、如此くに至りたる其功の過半は悉とく青年諸君の手に歸すべし、諸君は正に之を納受し凱歌を奏して可也、然れども諸君は初め疾呼したるに似ず、今は寂として歌はず、いよ〳〵謙して大約すらく、吾黨の目的は單に群馬縣下の娼妓を全廢するに止まらず、實に日本全國中の妓樓を全廢するにあり、何如にして此の細腰に安んずるを得んと、勇ます〳〵加わるもの丶如し、則はち島田三郎君演説筆記、縣會討論記録、及び諸君遊說の景況錄等を一輯し、之を出版して先づ全國中に廣布し、追ふて身を以て其散ずる所の跡を躡がんとすと云ふ、生亦た諸君の驥尾に附して道の爲に働らかんとを欲す、此盛運に會して殆んど感謝の辭に絶する也。

嗚呼青年諸君既に廢娼を主張す、老壯の人抑も何の辭を以て存娼を辨ずる乎、抑も姦淫を公許するは國家最大の不德に非ずや、此最大の不德を公許するよりも他に何の大弊害あらん、區々として密淫梅毒に掛念するものは、大害に怯れて、大害滅し小害の新來するに至り初めて驚愕するものなり、譬ふるに、自ら痼疾を辨ぜず痼疾去つて疲勞ある時初めて之に泣くに似たり、何等の愚ぞ、況んや密淫を滅ずるの方も亦唯だ廢娼

の一事に在るぞや、老朽凡俗の人實に恃むに足らず、絕大非常の改革は只だ青年諸君を要す、特に道を蹈み、義に勇み、不善に慣ふるの青年諸君に向ふて冀望するの他なし、則はち書して一は前非を謝し、二は後事を望み、併且つ此書を通して滿天下同志の青年諸君に告白すと云ふ。

明治二十二年十二月仲七　　巖本善治　記

○小說は游戲文字にあらず　　　藪　主人

極端のリアル派が小說を哲學と並行せしむる一科の學術となさんとするは望ましけれど今日に於て到底行ふべからず。然れども文化文政の戲作時代とちがひ小說は文學の極粹と目せらるゝ今日なれば、昔日の如く游戲三昧の事業となす事も望ましからず。春の屋主人以來小說家續々發生し、しかもかの似而非ヂスレーリーは次第に消亡して、今日の小說壇は漸く新小說家の占むる所となれば小說の氣運も又熟せりといふべきなり。然るに廣く世間を見るにおほ小說を游戲文字として徒らに字句の美に誇り趣向の奇に慢ずるエセ文學者もまゝ見ゆるは文界の爲めに歎息すべし。既に名を出したる方々にはかゝる淺見の流亞もなけれど、其作を讀み其風を欽して小說家たらんとする後進のものには、啻に先輩が文字に擬し得たれば欣々然として大に文學者をもて任ずるが如し。小說は游戲、文字にあらず、字句美にして趣向奇なりとも、是ればかりにて小說なりといふべからず。北邙散士がしがらみ草紙に載せたる小說家の責任の如きは最も悉したるものにして、所謂眞理の發揮とは人情の極微を描寫し得たるものにあらずや。如何に波瀾に富みたる絕代の立案なりとも如何に錯綜したる秘世の大篇たりとも人情の極微を巧寫したるにあらずんば何とて小說の本分を盡したりと云ふべけんや。小說家たるもの誰か眞理を發揮せんとて小說を作るものあらんや、又眞理を發揮せんと勸めたればとて能く小說家たるを得べきものならんや。然れども炬の如き慧眼と神の如き妙筆はよく此作を悉し得るなり。政治小說も探偵小說も理學小說も宗教小說も若し人情の極微を寫し得たりしあらば是を小說の本分を盡したるものとせんが、然らずんば是等は總て小說界の魔物といふべし。紛々たる文學界、小說の出づるもの日に多けれどよく魔物たらざるもの果して幾何ぞ。余は常に南翠外史の作を嫌ふ、是れ徒らに奇巧を弄する游戲文字たればなり。外史の作實に萬變萬化にして殆んど端倪すべからず、然れども人情の極微を寫せし處何處にかある。此の如きは戲作者たるのみ、何

ぞ小說家たるを得ん、外史の作千篇一も其任を悉せしものなし、唯改進新聞に載りし續行路難もし外史が作たらば第一のものたらん。又余は彩菊三昧等諸氏の作を嫌ふ、殊に彩菊山人の諸作の如き殆んど嘔吐を催ふす、日本之興論倭新聞を目して娼妓となす、山人是をもて滿足するか。是等の人世に聞えたる先進にしてなほ如此、もし世間是に模倣して、他のリアル論者の實相をも極めずして醜惡を旨とせば大誹を流す事又昔日の爲永本と仝じからん。小說は遊戯文字にあらず、小說をもて遊戯三昧とする勿れ。

○昔の女子は學問があつた

大日本教育會にて重野安繹氏が演說せられたるもの、教育會雜誌に載てありましたが、其中に左の一節が在ます、昔の女を思ふて今の女生徒方のお心得にもと思ひ掲載します、

私は諸國を巡回して古文書を尋ね捜しましたが所に依ては女子の書たものを澤山見受けました。昔しは婦人でも戶主と爲ることが出來て（これは明治の御定の通り）夫無くなり、子が居らぬ人などは、估券だの、或は質渡證文、または讓狀などを書き、藤原氏の女とか平氏の女とか書て、書判などを添へたのを往々見當りますが、手跡と云ひ、文言と云ひ、中々立派なもので、同時の男子の書たものと較べて見ると、決して負けることはありません。また今の女子の學科を修めたのと比較して見ても、優りはしても劣りはせぬかと思はれます、それで昔の女は無學文盲であつたと云つて、さげすむことは出來ますまい。又其證據を取て言へば、歌などは第一證據になりませう。百人一首に女の歌が三分の一戴つて居ます。萬葉集にも澤山ある。勿論みな名歌でありますが、歌は學問がなく智慧がなくつて立派に出來るものではありません。其詠歌の良い所で見て、日本の女子は昔しから學問もあり、物も知つて居り、道理も分つて居たと判定して宜らうと思ひます。龜山天皇の時分に、宮中の女共に物事を問れて答への能く出來る男は少ないものであると云ことで。當時左大臣實雄公が宮中に於て、女に何か問懸けられはすまいかと思つて、びくびくして居たと云ことが徒然草にありますが、京都の女子は、公卿方までも困る樣な學問をしたものと見ゑる。又幕府の時の三百諸侯即ち今の華族方の御姫樣などには、隨分怜悧な方が多い樣だ、男の方にも立派な御方もあるけれども、俗に云華族然たる所もあるが其割には女中方は中々立派な人が多い其譯は、婦人は

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

他に縁付く者で、素より其家で終るべきものでないから、小さい時からの教訓が届いて居る。男子は之に反して大名あれば自分の内で終るから、偶々不出來な御嫡子などが生れる樣であります。

○今の文學者は默せず　　　其川子

東西古今の文學者は常に默せり。詩學の祖希臘のバーシルは平生愚人の如し一見して其大詩人たるを想像する能はざりしと。佛國第一の戯曲家コルチイユは筆を取れば人情の微を穿ちしが自國の言葉だに澁りて正確に話すを得ざりしと。デカルトも口常に重かりしかばある人は彼の智嚢に充つるものは流通貨ならで金棍なりと評せり。アヂソンも衆人の中に語らず、然れども其觀察せしものは總てスペクテートアに顯はれたり。一代の詩宗にして其作りしもの長く師表となりしラ、フオンテイノは頗る訥辯にして其見聞せしものを語る能はざりしと、ある人評して曰くフオンテインは秀才なり愚者なり智愚併存して二ッながら其極に達すと。演説的文章を以て高名なりしイソクラテスは公衆の面前に出づれば臆して一語を發するを得ずして常に曰く余は砥石なり自ら切る事を得ざれど他物をしてよく鋭利ならしむト。チョーサーも頗る談話に拙にしてパンブローク伯爵夫人曾て戯れて曰く先生は口を開かんよりは寧ろ默するに如かずト。ドライデンも自ら曰へり余の談話は遲緩鈍拙にして滑稽は最も平手なり一言するに余は會席に興味を助け群客に歡語を與ふるの人にあらざるなりと。其他ゴールドスミツスもグレイもスチールも近くはスコットもサカレーも最も訥辯なりし。我國に於て見るも遠き西鶴其碩は知らず、近き京傳三馬一九等概ね訥辯なりしもの多し。作りし處を見れば玲瓏玉の如し、しかも其人愚にちかし、今の文學者を見るに高聲笑語快辯流るゝが如し、文學既に珠玉咳唾亦珠玉、是を古昔に比する果して如何ぞ。沈默がよきか快辯がよきか我れは知らねど昔日は不自由であつたものなり。飲中の八仙、高談四筵を驚かせしものは詩人にてあらざりし。

クリスマス小供の談

○人形の怪物　　　木村ゆかり

メリーと云ふ小娘がありました年は十二三でしよう至てかわいらしひ兒ですがまた至て強情ものでそして亂暴な性質ですから母親はじめ時々はもてあますようなこともあります、

御つかさん、臘の人形を買て下さいクリスマスの贈物としてよう買て下さいよう、あのジヨセフの店先にあるのをよう。

それでも御前人形は今迄いくつ買たと御思ひだ手暴にするものだから仕方がありません買ふとすぐおこわしだもの.

でも此度はクリスマスですものキツト大事にするからようそしてもう買て下さいと申しませんからよう……よう。

そうおせびりでは仕方がないテーそれなら此度ギリだよ。

そうそんなら買て來て下さるノ――――ヤー御ぢさんが來タ何か買てもらをうや……御ぢさん〳〵何か買て下さいよ明後日はクリスマスだものテーおぢさん……私は鳩が欲しひわ鳩を買て頂戴よ。

困るテー顔さえ見れば買て與れ〳〵か、鳩は此間も買て遣たでわないかそれをドーなした。

ドーシモしない殺して……イーエ死んでしまつたの……テーどうぞ買て下さいよ。

よし〳〵それなら買て遣りましようから大事にしなさい、アーうるさい子だテー。

かくメリーはクリスマスの前々日に母と叔父に強情を通してねだりものをしました、もう人形や鳩が手に這入たように喜で居りました、ジヨセフの店先にあつた人形のうちでどれがよかろうか買て與れない先きによいのを見て置た方がよかろうと翌日はひとりで家を飛び出しました家よりかのジヨセフの人形店迄は三四丁でさのみ遠くもありませんから一生懸命に走り出しますと不思議やいつもは五分か十分で行けるのに其日にかぎり如何にしてもその家がめつかりません、知れきつた道であるになぜわからぬかといろ〳〵に考へましても行く事が出來ず仕舞には我家の方もいづれやら知れぬようになりましたこわ一大事とあせればます〳〵分りません行くに隨て山路がだん〳〵と目の前に現れ谷川の響なども聞えますメリーは驚き慌てゝ走せ戻らんとする折しも無數の人聲がしますから何物が來るかと向を見れば一尺計の丈したる人が二三十人此方をさして歩み來り何事をか罵り合へりよく〳〵見るに頭を失ひし者もあり、または手足を缺損じたる者もあり異様の怪物のみあればメリーの驚一方ならず、林の茂みに隱れましたが彼の怪物はやがてメリーの隱れたる場所の前へ來ると眞先に居た一人が

皆なの方々一寸と御待ちなさいどうも此邊に居るようだか

ら……メリーの香ひがいたします。

すると一人の怪物は、

そう〳〵香がする〳〵必度此の邊に居るデアローあの娘のためには私などはどの位ひどひ目にあつたか知れない今日はよう〳〵さそひ出したから捕へたら怨のあるだけいぢめにやならぬ。

メリーは身をふるはしてこの話しを聞て居りましたがそも何ものがかく云ふやらん怪物とは如何なるものかとこはさをしのんで伺ふにみな見覺えのあるものです、よう〳〵考へ見れば今日迄自分が母や叔父などに買て貰た人形です、それをメリーがいろ〳〵と破り損なつたそれ故に頭のないものも手のないものも澤山あるノデス。

これ〳〵此の森のうちに音がするぞ探して見ろ確かに居るから。

と云ふ聲の下にメリーは既に見顯されました、人形の怪物は大聲を擧て殺せの打てのと騒で居りました大勢寄ッて逃んとするメリーをとりかこみ喰付くものもあり打つものもあり苦しさに心地死ぬ可き計りです。

アー助けて下さい……痛いよう……人殺し……助けて下さいよう。

と叫べども誰も來ては呉れません、するとと今迄一生懸命にメリーを責めて居た怪物共は親方が來たぞ〳〵と云ふかと思へば一度に姿を消して仕舞ました。

メリーは夢見る心地です親方と云ふは如何なる人かと見れば白髭の生えた柔和な顔付をして居る一人の老人です。

定めて苦しかつたであらう、クリスマスの日に美しひ人形を上げようと思たがぢきに手暴な事をして損じさせるから、その前によう物を損じさせぬように氣を付けさしたのだ、私しの袋には御前の好な立派な人形もあるし何なりと欲ひものがたくさんあるから慾にまかせて母樣や皆の方をせびりなさるな見なさひ御前の手は兩方とも人形のために拔かれて仕舞ひ足の指もありません、そして大勢かゝつていぢめられる時は苦しひものであらうがな。鳩なども餘りに手暴の事をせぬがよいあすは人形も鳩も贈て上るから樂しみにして待つがよいもしもまだ以前のような心にて改めねば、もつとひどひ目にあひますぞ。

と說きさとされてメリーは心の底より悔ひたれば謝罪の祈りを幼き口よりあいらしうも述て居るとかの老人は。

もうそれにてよろしいから家へ歸るがよかろう。と手を取て引立てくれるかと思へば身はクリスマスの朝日影が窓を通してさし込み居る寢床の上に打臥し居れり、枕元をと見やれば臘人形のうるわしきと、鳩の一對がメリーの目覺めるを迎ふる樣でその日より温和き幼兒となりました、おとなしき幼兒のメリーは樂しきクリスマスを勇んで迎たと云ふとです。

小説

○伊太利の佳人

ゲーテー著
愛軒居士譯

第六回（結末）。

少年は佳人と綿密に誓約の事を負擔すべき約束を爲し遠からず再び來りて佳人が此幸福なる決心に留り能ふや否やを問はんとを堅く契り一度の握手もなく接吻もなく只だ少しく異りたる眼容を以て相分れければ佳人も止めもやらず少年を去らしめたり佳人は今までの生活の狀態を十分變ぜんとて種々の準備起り此微妙なる決心に依り多くの仕事を得たるこれぞ佳人の幸福とぞ知らる佳人は先づ嚢に法學士を迎へん爲め振り散らしたる美麗なる花葉を掃ひ出さしめ次に軟柔ある寢臺の代りに粗造なる床を設け其上に於て先づ新生活の手始として只だ僅に麵麭と水とにて口腹を飽かしめ夕になりぬれば其上に臥し翌日は又襯衣を斷ちて之を縫ひ兼て貧院と病院とに約束したる數だけを製へ終らんとて怠たらず勉めける斯く新らしき仕事を爲すにも心には常に可愛の友の肖像を畫き未來は無や樂からんと十分の望を抱き少時も妄想の止む時なく狹小なる食物は却つて佳人の爲に心を興奮せしむる滋養となりたるが如くに見へたり。

斯くて一週も過ぎ其週の終りには佳人の兩頰に綻び染めたる薔薇の色も漸く蒼白色を呈し始め可愛の友の再び來りて佳人を慰め新に活潑の氣力を與へし時は佳人の身體に曾て適當なりし衣服も甚だ大きくなり活潑なる手足も大に瘦せ衰へたり少年は佳人に向ひ尙は少時其決心に留まるべきとを說得し吾とても已に十月以上此誓約を履行けり御身は未だ一週になるやならざるになどて斯く衰へ給へるぞ今にも願望達して互に相樂む時の來るなりいざ氣を勵まし給へと云ひさして長居も爲さず近々に復た見ん事を約して歸り去れり。

佳人は氣を勵まし再び慈惠の仕事を續け少しも嚴酷なる誓盟に違ふとなきも尙は重き病の爲に全く氣力を失ふにも至らず

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

其週の終に渠の朋友は再び其許に到り最早試驗も半を經過ぬれば尙ほ少時の間なり忍び給へと勵せりされども佳人には慣れ來らざる齋戒、禮拜、業務は益々煩しくなり非常なる節食は閑居飽食に慣れたる身躰を撲滅せんとするが如くに見へたりされはや足元弱りて立つと叶はず溫暖なる時節なるに衣服を幾層も重ね着て殆んど消へ失せたる躰溫を保たざるを得ず後には直に坐するも容易ならず褥の上に横臥せり。

今や佳人は此狀態を見て如何なる觀察や起りけん此の奇怪なる出來事は如何に厥佳人の精神の前を往來しけん己の身を此くまで非常なる犧牲に供せし朋友は待てども〳〵影だに見へずはや十日も過ぎければ佳人の苦痛は如何ばかりぞされども此の憂苦の時に於て十分其病の全快の種子を蒔きたり全快の期は此時に於いて決したり後に朋友來りて臥床の側に行き始め佳人より意中を聞きし椅子に倚り親切に溫和に佳人に向ひ尙ほ少時氣を丈夫にして耐忍すべしと言けるに佳人は微笑つゝ其談話を絕ち、

妾が愛敬する朋友よ最早何事も宣まふな妾は貴君が妾の身を思ひ親切心よりして妾に此負擔を與へ給ふことをよく知れりされば此後とても僅の日なれば尙ほ耐忍して妾の契約を續くべし妾は今貴君に向ひ心に感ぜし如く十分の謝禮を述ぶるの氣力なし貴君は妾を妾自らに與へたり妾を妾自ら保たしめたり實に妾の生命は今日より已に貴君に負債せるものなるとを知る眞に妾の夫は道理に明なり怜悧なり眞に女性の心を知れり假令婦人の胸裏に情慾の發動するも其原因は己の罪より生ずるものなれば決して婦人を誹らずとは餘り道理過ぎたる事なり加之己の權利を捨て自然の要求を先にするは實に大膽なる心なり去れども貴君も亦た道理に明に熱心を有する人なり貴君は妾をして情慾の外に尙ほ吾々の中に情慾と平衡を保ち得るものゝ存するとを感ぜしめたり又吾々は如何に習慣せる貨物も之を去り得吾々の最も熱心なる願望といへども之を遠ざけ得るの能力を有するとを感ぜしめたり貴君は妾を此學校の中に迷惑と希望とに依りて導き入れたりされども妾は今漸く彼の有力なる己(Ich)てふ者と相識れば最早迷惑も希望も必要あらずとも己てふ者は靜に吾々の中に居を占むるも十分の勝を得るまでは之を回想せば少くも其存在するに氣附かしむるなり貴君も此後隨分御機嫌能く貴君の女友は後來復た貴君と愉快に相見るとあるべし貴君は今妾の爲に盡せし如く亦た同胞人民の爲に力を盡し給へ啻に財產上の紛亂を解くの

みならず靜に渠等を誘導し自ら其龜鑑と爲り凡そ如何なる人にも德義の勢力は陰德の中に萠すとを示し給ふべし然る時は世上一般の尊敬は其報酬となり第一位の政治家最大の勇者たるよりは寧ろ我國の父なりとの名を得給ふならんされば隨分御機嫌能く…………（了）

寄書

○感ずる處を記して明治二十二年を送る

國木田哲夫

明治廿二年史の發端は二月十一日を以てしたり、帝國憲法の發布、森有禮君の遭難は明治廿二年史の筆始めなり、戰に譬へんか、進軍のラッパなり、航海に譬へんか、出港の滊笛なり、滿腔の熱心を注で祝す可き者は憲法の發布、胸打て慟哭す可き者は森文部大臣の遭難、思ひ反せば今年のトラゲヂーは森君の遭難を以て始まり、今年のコンメヂーは憲法發布を以て始まる、夫れ悲歡系を追て並行す、又不思議なる哉、

悲系の重なる者は、天變地異、大隈伯の遭難、條約改正の蹉跌、等是なり、喜系の重なる者は、政治思想の吹込み、德義心の注入、立太子の盛典、廢娼論の勃興等是なり、悲歡此の如明白なる如くなれども、禍福は元と糾へる繩、甲は乙に關はり、彼は此と結ぶ、種々雜多の原素はまじり〳〵て此の歷史を作りしなり。

天變地異、德義心の注入

凡そ今年程仁人義士をして、泣かしめ、胸打たしめたる年はなかるべし、思ひ反せば、今年の天變地異は、實に吾が同胞數千を殺したり、空しく白骨を撒き散したり、吾幾億万に近き財產をあへなく地下水底に葬りたり和歌山縣死傷千五百八十六人、動產、不動產の損害の總金額八千八百五十四萬八千一百三十五圓餘、福岡縣死傷百二十三人、飢民受飯者七万〇三百二十六人、奈良縣…生未見奈良縣水害統計表、乞緒教、諸君……東海散士佳人之奇遇の中に歌て曰、（一家離散又何歸、子別慈親妻別夫、年々流落向天涯、宗祀不祭鬼神哭、饑莩横途鷄犬稀、雲黯濟兮山川愁、風凄颯兮草木悲――嗟余當時只だ空想の中に吟じたり、何ぞ計らむ、各地水害の場處皆此の詩の如きとは――」驟雨過ぎ去りし後、晴天白日又憂ふ可く、悲しむ可き事なきに似たれども、見へざる處、現はれざる所、隱れたる隅、沈める低、未だ慘憺悲事多し、世の仁人義士、細かに山間僻地を漫遊して可なり、然れども一方より觀察を下す時は、此のトラゲヂーも、甚だ吾國民に慈善惠與の美念を、吹込みし道具とはなれり、慘報一度たび世間に廣まるや、不幸なる吾同胞を哀れむの聲は四方に起れり、爲めに義捐音樂會を開くあり、義捐演說會の現はるゝあり、義捐競賣會、義捐演藝會、義捐見世物、義捐曲馬、曰義捐何と救助の爲めに義捐金募集の聲は殆ど日本全國に振ひたり、ノルマントン號事件吾國に起りし以來、義捐金の事は恰も流行物の如く、又一種名聲を賣るの術の如く、遂に彼の汚なき名前とへ、義捐金受取表に現はるゝに及べり、然れども今年は他方に政治上の多事なるにも係らず、人々熱心に慈善に從事し、粗雨寒き時、親しく荒野に奔走し、懷中冷たきに切に同胞の爲めに十錢を投ず、仁人君子各其の分に應じて働きたり、凡そ此等の行爲は大に吾國民の胸裡に慈善惠與の美念を吹込みし者とはなりぬ、又彼の東京府會賄賂事件、一度び天下の誠膜を打つや、正義の筆法は攻擊論難、一も免す處なく、爲めに東京紳士、地方紳士の破廉恥なる心を寒からしめたり、又一時教育界を暴らしたる、彼の女學生に對する醜聞は、其の風說にしろ虛報にしろ、以來女學生貴婦人の行爲擧動に、壯嚴粛整を帶ばしめしや明なり、物の噂も七十五日、消へ去れば空の空、漠々虛無の如くなれども、吾國民の心憶に注入されたる德義の觀念は、蓋し非常の者ならむ、然れども、社會を利導するを以て、自ら任ずる人は、彼の女學生に對する風聞の如き者に向ては、今少し注意を用んとを望む、風聞は風聞なり、別に意に介するに足らざる如くなれども、地方父兄に與へたる感想は引て吾國女學の盛衰に關するを如何んせん。

條約改正、政治思想

誰か條約改正の中止を以て、吾國に祝賀す可きの事なりと云ふ？然れども最早喋々するにも及ぶまじ、唯言はん、黨派同じからざればとて妻に離緣狀を與へたる時、彼れ賣國の奴なりとステッキを振廻はせし時、數百の査警官列を造て演說場に望みし時、保安條令の嚴命下りし時、中止解散を命ぜられし時、發行停止の命を被りし時、癇癪を起せし時、漁夫の利を奪はんとする時、立腹と猜忌と、貪慾と卑劣と、臆病と强慾と離合亂參する時、其時は別に何んとも思はざりしならむ、左程とも感ぜざりしならむ、しかし、問題一度で决し、熱一度でさめ、心再び本とに復する時は、佇立茫然顧みて思はず熱汗背に流るゝの事はなきか、」と每日新聞は十二月十一日報して曰、

仙台の沼澤與三郎と云へる人は又々此程其の筋に向て日本人民の智未だ國政に參與するの域に達せず、此際若し國會開設を爲さば徒らに黨派の競爭を逞うし其の極如何なる椿事を爲出かさんも知る可からざれば明二十三年に開設さる可き國會は暫らく延期せられんことを請の建白書を捧呈したる由。

彼の激烈なる黨派の爭、彼の悲しむ可き大隈伯の遭難が、日本國民に與へたる感想は只だ此の一編の建白書を以て其の幾分を測量し得べし、之れ只だ一小事に似たり、然れども社會の外面に現はれて、斯く公然と時勢に抵抗し、抵抗してまで建白する者あるを見れば、其の裏面、陰密なる處、幾分か此の建白に類する感想の沈伏し居るや明なり、元とより滔々たる天下の大勢は此等、一小建白の如何とも爲し得ざるは勿論なれども、「雪溶け櫻咲き國會開けずんば世人に活氣あるまじ」とまで人をして言わしめたる國會熱が、何時しか其の幾分を此の冷たき感想と化したるは、以て知り得べし、黨派激烈なる競爭、大隈伯遭難が、日本人民に與へたる憂愁悲哀の度を。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

しかし、此の憂ふ可く悲しむ可き事多かりし條約改正問題も、一方より觀測を下す時は、彼の水害、賄賂、風説の慘憺事が反て吾國民に德義心を注入したるが如く、又た政治思想乏しき吾日本人民をして大に其の思想を政治の方向に向けしめたりし政治思想の多量を吹き込みたり、國會開設請願の騷ぎ自由黨の地方横行は、随分吾國民に政治思想を吹込みしに相違なし、然れども、當時は日本全體の教育、今日に比して至て低くし或地方の如きは自由黨と呼へば刃ピストルを懷中したる者と心得、演説家論客と云へば皆な長髪肩を掩ふと考ふ位、其の所謂、演説家論客等も、決して、或る實際に付て論ずる事なく、只だ自由民權等、抽象的の事のみ唱ふる者なれば、其の國民に與へたる政治思想は至て粗に且つ薄かりしや必然なり、されど今年條約改正問題が與へたる者は決して然らず、問題は之れ實地の問題なり、其の決議は日本の未來に關する大事なり、兩説分裂して、辨難舌爭の激しき割合に、慾眼以て敵説のぬけ目を探せば、其の論ずる處、其の説く處、綿密にして且つ適實なり、之れに加ふるに、二三年以來國民の教育は大に進歩の實を現はし、如何なる山間僻地と雖も、一二の所謂ゆる有志家なる者あらざるなき様、故に余は言はんとす、今年の條約改正騷ぎは大に國民に向て政治思想しかも、綿密なる政治思想を吹込みたりと、一歩を進めて言はんか、黨派激烈の爭、兇徒の出現は實に悲しむ可しと雖も、政治思想の吹込みは大に喜こぶ可き事なりと。

形勢一變、廢娼論の勃興

二月十一日を以て始まりし廿二年史は十月十八日より十一月三日迄で十七日間に全く其の筆法を一變したりと謂て可ならむ、「十八日大隈外務大臣兇徒の爲めに重傷を負ふ」警報一度び響く時、昨日まで鬱積したる陰雲怪霧は俄然破條を現はし」二十二日黑田總理大臣辭表を呈す次で二十四日各大臣（大隈大臣山縣大臣を除く）相率ひて辭表を呈したり」霹靂一聲、形勢傾く時一瀉千里、最早如何ともす可からず、天下の大勢已に殆んど定まらんとして人心尤も洶々、「十一月三日神聖なる吾王室は明宮嘉仁親王殿下を皇太子に冊立し給ふ」吾臣民は熱心に此の盛典を祝賀したり、祝賀し終て、ふと政治界を顧みれば、滿目の秋光轉た寂々を覺ゆ、……嗚呼此の時は已に形勢一變したるなり、壯士鄕に歸り、警官少く閑となる、戰亂の後、處々一騎討の太刀音のこり、遙かに寂しき烽火を見る、人々鎗を解き鉛を投じて息ふ、息ふ間もあらせじ、忽、上毛地方より廢娼の聲は起れり、初は南山の雷、極めて遠く極めてかすかなる如くなりしも、轉一轉、今や全國の輿論を惹起さんとするなり、福井縣會、神奈川縣會、東京府會、岡山縣會、等續々廢娼の説現はる、嚶鳴社政談演説會に作直之助氏の廢娼演説あり、婦人矯風會及、婦人白標クラブ發起の廢娼演説會にて嶋田三郎植木枝盛兩君の演説あり、次て廢娼會現はれ、一番町耶蘇教會堂にて巖本善治君の廢娼演説あり、而して東京の諸新聞も續々と之れを論ず、於此世は再び活氣を生じたり、此れを水に譬ふれば、今まで清濁混合、木葉を浮べ塵を雜へたる上水が、端なく地中に隱れて、水濾に滲され、潔白なる淸水となりて、再び地上に吹き出でたるが如し、大流の進む所遣憾なかるべし。

年去り、年來る

明治二十二年將に逝かんとして二十三年の曉は來らんとす、千年前の歴史を讀むさへ百年の大計を立つる者あるに、「廿二年の歴史も已に終を告げたり」、演説家、新聞記者、遊説家、當局者、凡て歴史の外面に働らきし者！、煽動家、冷笑家、助言者、凡て歴史の裏面に働らきし者！、明治二十二年の歴史を以て、或る場所、某の時代、全く吾等に關係なき歴史と假定し、虚心平氣、忌憚なく、阿諛なく、細かに之れを熟讀分析せよ、敵黨に打込みし棍棒は、只だ同胞の頭を傷けしのみに止らず、深く國民の腦底に一撃を與へ、其の一滴は引て何れの處、何れの時、如何なる有様に孵化するか十分想像し得可し、一呼吸、以て紙面に述られたる過激の論説は、只だ敵黨の膽をひしぎしに止らず、思わざる處に其の彈丸の破裂したるを見る可し。もゝ度の發行停止は、只た論客の筆を捕へしに止らず、幾万の人に如何なる感覺を吹込しかを知るを得可し、凡そ隱れて言ふ人も、現はれて働らく者も、別に己れの言語擧動が大勢に關係するなきに見ゆれども、大勢！、春の日、靜なるに當て、汝の茶園の上に、一團となりて群飛する小虫を見よ、互に離合亂擾思ふまゝに、右に飛び左に飛ぶ、更に一小虫の一飛一躍は、全群に係はるなきに似たれども、しかも群虫の全團は、整々として前に進み後に退くなり、天下の大勢亦た如此、論客の思はざる片言も、時に由ては大勢の全體も動かすなり、廣く世の知られたる人、此の寛力尤も強し、嗚呼新なる二十三年の歴史は前に横はるなり、人皆言ふ二十三年は多事多難ならむと、余は其の果して如何なるを知らざれども、切に世の人に望む、世の人々は二十二年の歴史を熟讀翫味して後に二十三年に進まんことを、しからざれば、英國憲法史、佛國革命史、何んの用にも立つまじ。

除夜更に闌なり、萬籟寂寥、靜を破る者は、無始無終をきざみ進む時計のセコンドのみ、寒燈の下、手を拱けば、神靜にして氣平、不正を行わざれば罪なく、罪なければ恥る處もなく、仰で天に愧じず、伏して地に慚づる處なし、淸く斯の年を送る！。

開書

○府會議員に寄する書

去廿一日廢娼論の會議あるとき府會に傍聽いたし、賢明なる諸君のお顏を拜見し、御論を拜聽しました、中には御熱心の方を多く見受たれど、平生教育とか何んとか云ふて大層御演説なさる人は、議事中にアッアッと大きな欠伸を爲れました、又或る頭の少しハゲタお方は頻りに頭を撫でゝ見たり頰をつッぱつて見たり首を曲て見たりして冷々モウよせ〳〵なと仰しやる様でした、そして密かに其番號名札を拜見すれば音に聞えたる高名の愛國者、教育者、慷慨家で平生は書き物の上に御熱心を承はつたるお方です、此君とも傍聽でもお許になるとき又は大切の議事、何れ大切なれど特に風俗道德に大關係あるを議論なさるゝ時などはも少し御謹愼あつて然るべきかと考へます。

神田一書生

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

文詢

問の部

（一四）。私の御教示願度は文學の定義と樂しき夫婦と云ふ事に御坐候。前項の問題に付き候ては高津鍬三郎樣のものされ候「何んが文學と云ふ」と題せられ候ものを日本文學にて拜見致し候へ共淺學の身には何やら物足ぬ樣覺へられ殘念に存居申候自然御前樣の御思召に於て那の書物こそ文學の定義又其區域抔知るに便りよしと見られ候書物有之候ならば御示に與り度又不幸にも其物無之候ならば何卒開書にて充分御示し下され度願上候次きに樂しき夫婦と申すは箇樣に御坐候人の勞苦して物させざるは幸福を得たい爲にして其幸福は心官と身官との和合發達したるものであると相定め候上にて扨これが同伴者男なれば女子、女子なれば男共相手はどの邊より何ふして來め候へば樂しき夫婦として暮せ申す可きかさ申す事に御坐候。敎育の隆盛は男子女子共に立派ある人を澤山出し候樣に相見へ候へ共大學校卒業洋行濟の學者に候ため安して妻となり高等女學校卒業西洋仕立の婦人に候ため喜んで夫となるも何やら懸念の至りに思はれ申居候此事につき過般能勢樣には國の基にて樣々御說き遊ばされ候樣にて私も實は拾ひ讀致し居候へ共是れも同じく何やら意に滿たず候故斯くは御煩累を重ね候事に及申候何卒樂しき夫婦とは如何なる男女が相合ふていかに動きてこそ眞に其ものを形り候ものにや例の御靈筆にて御敎示にも相ならば生涯有難き事に御坐候也恐惶敬具。

答の部

（九）。一年の計は春に在り、其春の心得方を今より聞たいとの思召は實に殊勝な御事と感服致し升す、色々ありましやうが大要は今年一年中の事を深く思かへし考なほし、過ちなりしと思ふとを二度び爲さぬやうに、成功したと思ふとを彌よ勉强するやうに、即はち今年中の經驗によりて確と覺悟するが第一でありましやう（山下石翁）。

●鈴木信子　日本に於て發行する英字新聞中最も好評あるは、どうしても横濱メールでしやう、然し發賣高の多いのはガセットの方ですが何れも五百部位しか出ないやうです●大阪愛讀者の一人と云ふ方「廢娼の議云々小生の知己親友にして尙早論を唱ふる者多し亦若し斷然廢娼するに於ては頭に穴のあく人やら鼻のなき人を亦昔の如く多く見るならんと此邊の事に付詳しき御說明御聽せ下され云々」此の二三號の女學雜誌社說及演說筆記を御覽ありたし●花の家かをる君　西洋歷史研究用の地圖には色々あります、尤も細きは十四位、夫より三四圓のもあります丸善などに在りますが隨分お取次も致し升●北豆書狂者　譯者にて修辭學と美學との宜しき書物は菊地大麓氏譯美辭學、高田早留氏著美辭學、此頃出來た文章哲學並に中江篤助氏譯の美學でしやう●柳川一寒生「私は數旬前授洗したれど實に信仰が進まず思想淸くならぬに困却す信仰を進め思想を淸くする心得にてもあらば敎へくれよ」云々　最良の法方は深夜に默想祈禱し聖書を熟讀して深く自ら書みると、及び善い信者の傳記などを讀むのです●同上　心靈の修養に最も益ある書物は無論聖書でしやう。文章を學ぶ第一の捷徑は多く人の文を讀むとと自ら多く作るとです●大坂島の內敎會一信徒、　基督敎新聞にある上代知新氏が敎師の職を奪われし事由如何に知己であるから知らせよとの事、之れ固より存ぜざるとなり亦尋れたりとお答へは致しにくからん、尤も冤罪にてある如き時は何處までも辨ずるのが私供の任です折を得て聞きて見ましやう　前橋のミ、ク生　○爐君と○水君とは信者なるや否やの事、御兩人とも信者のお積りでありましやう、然し前は敎會に屬し居はまだ敎會には屬され丶樣です。○陵居士は某にてあらんとの推察左樣にて候乂丶丶であるか無きかの問未だ丶丶でないのです●靜岡石井氏　魚や鳥や野菜などの攘氣を早く拔く妙法は柿葉をもみて浸した水の中で洗ふが秋ならば生澁を混ぜたる水で洗ふのです●

時事

○クリスマス

今日はクリスマス、救主降誕祭の日なり、女學雜誌は特更ら今日出版せられて讀者諸君と之を祝すると云へど、心中自づから快よからず滿分に祝しがたし、嗚呼吾兄弟姉妹と共に與に眞のクリスマスを祝し得るの日は果して何の年にありや。

○深く讀者に謝す

吾人が廢娼の事を言ふは遺憾限りなし、何すれぞ徒づらに此の不潔の事を喋々せん、特にクリスマスの當日も尙ほ讀者に濁報を示すの止みがたきを歎く、然れども時勢吾人に之を要す、諸君希わくは恕せよ。

○東京府會の議決

東京府會はいよ〳〵去廿一日に於て廢娼建議を議せり、發案者小島宜吾氏に賛成するもの少なく、伴直之助氏は調査員を設けて之を來年度に議すべしと云ひ、松尾清二郎氏は府會に於て之を議すべきの權なしと云ひ、角田眞平及浦田治平の二氏は廢案を主張せり、其の主張の理由とする所ろは、若し之を東京府下に於て禁止せば、娼妓は近縣に流濫して一層隣地の風儀を害すべし、如此せば全國の風儀に於て一の益なく寧ろ害多かるべし、來年には最早國會もあるとゆへ、其の時に至り全國代議士の議決を以て全國一時に全廢するの處置もあるべしと云ふに在り、斯て採決するに當り、多數を以て廢案に決す。

嗚呼之れ何の事ぞ、吾に禁じたる惡物が隣地に行くべしと憂ひて惡物に甚へ辛棒すると云ふ乎、天下何處にか斯る仁人わらん、抑も娼妓は何に由て近隣に亂入するや、近隣に於て營業し得べきが爲めか、然らば其地には元來其丈の需要ありしものにて、たとひ此の娼妓が亂入せざるとも遂に左程の娼妓わるべきもの也、特に近隣に娼妓が移轉したりとて何を以て東京府會議員は之を憂ふる乎、近隣にも必らず諸君の如き議員あるべし、万一其地に於て弊害甚しきに至らば彼等諸君も亦た同じく廢娼に決すべし、如此く一區々々惡を滅して遂に全國の惡を滅するは社會改良至當の道行にあらずや、論者は左程迄に近隣の爲めに憂ふる信切ならば、何ぞ其の代表する東京府下の爲め更に一層に信切ならざる、東京に泥棒多し、若し之を撲滅せば近縣に横入すべしと心配して取締を緩くすべきか、而して來年國會開くるに至り全國の議員一時に相談して泥棒を退治し夫迄は隣人の爲めに辛棒すべき乎、數年前東京の警察官は府下の烏を驅りたり、之が爲に多くの烏は近縣に逃れて其田圃に群りたり、然れども近縣の農夫亦よく之を追ふを知りしが故に久しく其害を爲したりとも聞かざりし、左れど嗚呼若し國會開けしのちに於て一時に議決し此の烏を驅逐したらんには更に一層の仁惠にてわりしならん。

亦た府縣會に於て之を議すべきや否やに付ては、法例上より之を事々しく言ふとの甚はだ不信切なるを思ふ、凡そ法例は生かしむべし死法たらしむ可らず、好し其の發布の當初に於ては冷々たる文字の示す如き意味にてわりしとするも、社會の進歩と共に其法例の意義を擴張するは極めて美事にして、官私ともに望むべきの良風あり、左れば府縣會議事規則に於

て好しや稍や之を議するの權あることを明證するなきとも、苟くも之を禁ぜざるに於ては默許暗諾の中に之を議して可也、之を立憲國代議士の覺悟と云ひ其の信切、德義となす、然るを況や議事規則に於ては一地方の「利害に關すること」をと云ふ、利害の問題は單に金錢上の事に非ず道德上の事に至つては利害に關する最も大いなるもの也、左れば府會議員が之を議するは東京府民の爲に恰當至適の事にして、斯ありてこそ實に百万民の利害を憂ふるものと云ふべし、區々として死文字に拘泥するは豈に議員の本分ならんや、殊に其死文字すら倘ほ復活して諸氏の口を開かんことを佇望し居るをや。然れども府會は、松尾清次郎氏及角田眞平氏の議の如く、遂に廢案に決したり、而して此の廢案説に贊成し起立したる諸君は一々各異の説あることならん、左れど發表したる廢案説の主旨は即はち上述する所に過ぎず、而して多數の諸君は之に贊成したり、嗚呼東京府會議員は近縣の爲めに憂ひ、又來年の國會を望みて此の建議案を退ぞけたり、吾人永く之を記臆し且つ來年の國會に對する諸君の運動何如んを見ん。

○天雲漠々

天上の雲漠々として定まらず、大隈伯は職を辭し早稻田に退ぞき心地すが〱しと言ひ居らるゝ由、前首相黑田伯は之を見舞ひ手飼の鷄の卵に而も一々產日を記したるものを持參して慰さめられしよし、山縣伯如何ん、井上伯如何ん、車轆々として往來し、馬嘶々として鳴く、左れど內閣の何如に定まるを聞かず、左れど天下は太平なり、左れど帝國議會は近づきつゝ來る。

○責任論

何人が今の內閣諸公に向つて十分の責任論を爲す、本來其全躰に於て責任の歸する所ろなし、將た何者に向つて責任を負ふの責任あらん。

○大臣の責任

然れども大臣の責任は一個人の責任に異なる、たとひ身其の職を去ると云へども安んぞ國家を忘るゝを得ん、人に長たるものは人に使はるゝもの也、苟くも國家を愛す、何如にして此の國民の困苦を傍觀することを得んや。

○難義者に惠める古着

築地聖保羅教會にて發起し、和歌山奈良兩縣下天災に罹りて難義する貧民へ向け古着などを寄するの募りには、續々申込みて之に應じたる者多く、合計千六百六十三品、外に八包及

金十九圓〇一錢を過日先方へ送られしよし、此寒天に吾等は先づ〱不自由なく衣物きれど、彼の災に罹りたる人々は抑も何如に暮らし居るとあらん、凡そ惠む者は快ちよし、惠まれたる人のみの幸福にあらず、衣服を脱ぎて貧者に與へたる人は夫丈けに心温かく感じ、寒さに對して寧ろ樂くあらん。

○家畜に對する慈善

円太郎馬車など云ふ馬車に繋がれ、皮骨累々として辛ふじて走るとき、叱々鞭撻せらるゝの狀を見れば何如にも憫れなり、米國などの慈善家が家畜虐待制止會と云ふを設け、牛馬などを慘酷に使用するを防ぐの設けあるは實に人心に於て止みがたきの處置なり。今年大分縣會に於て三番議員后藤某は獸醫講習所の事を議するとき、牛に代ると稱して之を憫れむの議論を爲したるに、報知日々の二新聞は牛の代議士と目して之を冷笑したり、然るに報知新聞は其后或投書家の忠告に感じ用語の粗忽ありしを謝し一層の美を呈したるが、世人總躰亦此種の慈善に注目さるゝやうに致したき者也。

○濁界淸音

横濱に於ては、其一致教會其他に屬する青年、海岸教會に總會を開き、來年早々廢娼の大演說會を開く事、神奈川縣下の各地方へ遊說者を派出する事、廢娼の建議を爲す事等を議決したりっ

名古屋に於ては、藤井仁三郎氏以下數名同地大須新福亭に於て去十八日廢娼演說會を催うしたり、同市旭樓の樓主は屈强の車夫十名を連れ亂入し、辨士を叩き殆んど絕息せしめたり、左れど廢娼者はいよ〱熱心にして爾后益す運動せり。

東京に於ては、去廿日の府會郡部會に於て、七十二番高橋氏より更に娼妓へも賦金を課すべしと建議し十七番宮本氏も之を贊成したれど少數にて滅したり。洲崎遊廓の岡村文吉氏其他の者は其筋に向て廢娼論中止を出願せんとて協議中。東京府會に於ては、殘念ながら附錄に示す如くに相成りたり、即はち廢案とされり。　都新聞は廢娼論を熱心に贊成し殆んど極端なる廢娼論なりと云へり。

岡山に於ては、中國基督教青年會員及其他の人々團結し、知事に廢娼建議を呈出し、尙ほ其門を叩きて熱告したり。

栃木に於ては、都賀郡富山村なる攻學會より、知事に廢娼建議を爲すとに決し、白石和一郎、松本清一郎、野原源一郎の三氏其の起草委員となれり

○東京婦人矯風會

婦人矯風雜誌の報告に云く、去七日日本橋教會に於て年會を開く、最后役員改撰に當撰するもの左の如し、

會頭　矢島かぢ子(四十六點)　淺井作子(十九點)　湯淺初子(三點)。

會計委員　海老名りん子(十八點)　本多幸子(同上)　小島濟子(十七點)
　小崎ちよ子(十五點)

改撰議員　(イロハ順)左の如し、

嚴本かし、池田子尾、井深せき、石原くに、伊勢たま、林うた、丹羽けい、本多こう、德島ひさ、宮崎みつ、荻野ぎん、金谷てい、橋井さよ、竹尼琴、中村かつ、潮田ちせ、工藤さの、串田こう、矢嶋かぢ、松原いく、淵澤のへ、古市しづ、小崎ちよ、小嶋きよ、淺井さく、相長龍、佐々木さよ、湯淺はつ、海老名りん、元良よね。

又本會事務所建築金募集委員の報告によれば、

明治二十一年迄の約定金額	六百〇八圓
明治二十二年中の約定金額	二百卅三圓七十五錢
合計	八百四十一圓七十五錢
內收入現在金額	二百九十七圓十六錢四厘

但し矢嶋氏は病氣未だ癒えず任に堪へざる由を以て會頭の職を受けられず再三會員等より强ゆれども未だ承諾せられざるに付、近日更に總會を開くと云ふ。

○万國奴隷禁止會議

亞弗利加其他に奴隷商賣の尙ほ行はるゝを制止せんが爲め白耳義國ブラッセル府に十一月十八日を以て列國會議を開會したり同國外務大臣假りに議長の席に就き滿場一致を以て同國內務大臣を議長とし同大臣は今の時に當つて奴隷の商賣を制止するは文明國の義務なる旨を陳べたり其會議に列したる國々は合衆國、獨逸、墺地利、匈牙利、日耳義、丁抹、西班牙、コンゴ フリー ステート、佛蘭西、英吉利、伊太利、和蘭、波斯、葡萄牙、露西亞、瑞典、諾威、土耳其にして翌日も引續き開會したるに其日は亞弗利加內地の同貿易を第一着に禁するの利否を討議し委員を命じて審査せしむることに決したるよし。

●時務小史

○坂垣伯大坂大會の事

兼ては十七日に開かるべき筈の處ろ、坂垣伯の病により十九日に延びたり、大坂には東雲新聞、關西日報など云ふ自由主義の機關もあれど、前なるは自由黨再興說に傾き、后なるは大同派に屬するやうなれば、中立を旨さする大坂公論當時の記事を特更に取り、左に記し置く、

政社派の人々が板垣伯さ談判せし摸樣を記るさんに去る十七日非政社派に於ては板垣伯の意見を確めん爲め一府廿二縣の總代さして東京よりは大井憲太郎、山川善太郎、島根よりは園山勇、中溝久三郎、曾田愛三郎、兵庫よりは早川治三郎、服部雖卍、愛知よりは內藤魯一、國島博、岩手よりは大澤義介、横川勇治、秋田よりは渡邊小太郎、野出鍋三郎、福井よりは中島又五郎、神奈川よりは石阪昌孝、天野政立、水島保太郎、山田泰造、山梨よりは小田切謙明、神山亮、島津金重、岡野啓四郎、長野よりは島津忠貞、小池平一郎、小山久之助、埼玉よりは齋藤珪次、高橋安爾、野口褧、千葉よりは高野麟三、松本四郎、栃木よりは新井章吾、持田若佐、滋賀よりは村田豊、茨城よりは野上球平、柴長左衛門、片野文助、群馬よりは清水永三郎、長阪八郎、伊賀我何人、和歌山よりは畑下熊野、岐阜よりは岩田徳義、村山照吉、新潟よりは中村敬太郎、愛媛よりは森肇、鳥取よりは山本庞藏、靜岡よりは望月文脩の諸氏午後五時頃伯の寓を叩きたり此等の人々が爾迄自由黨再興の必要を述べたる要領は第一自由黨の名稱はドコ迄も保存せざるべからず即ち日本に在て最も舊く最も閱歷あるの黨派にして中頃其黨員の過つて法網に觸れ刑辟にかゝるものもありしがコハ時世駈軻の然らしむる所にして其人の罪にあらず好し其罪ありさするも爲る斯る罪過に陷りしは我黨員の眞摯剛直を證明すべきものにして決して耻るに足らず左れば縱令自由黨の名稱が一旦世人に危激の感じを與へたるとあるにもせよ今之を捨つべからざるのみならず却て再び之を興して其惡き所を改め以て永く其名譽を傳へざるべからず云々第二は板垣伯と自由黨及自由黨の名稱との關係にして種々是迄の經歷を述べ殊に先年伯が洋行して佛國の政治家クレマンソー氏に面會の砌同氏は日本に自由黨なるものありと聞き深く其主義の同じきを喜び伯を欵待して若し他日君の統卒する日本の自由黨が大に運動を試みらるゝの時に及ばゝ予は予が機關とする新聞紙の一部を以て全く其機關に充つべしさまで言はれしさの事にて是程迄に關係の深き自由黨の名稱を捨てゝ謂れもなき愛國公黨を形造るの不可なるを述べ第三愛國公黨なる名稱の不都合なるを論じ伯が情實に拘はる事なく斷然たる擧動に及ぶべしさの事なりしが伯も之が爲に頗る熟考する所あり非政社派の人々が悉く大阪に引去んさするを態々使を以て大井內藤等の諸氏を引留め置きしが翌十八日午前十時頃再び彼諸氏に面會して曰はるゝには諸君の申さるゝ處如何にも尤なり去り乍ら此事に附ては誠に情實に流るゝ嫌はあるかも知られど予は政社さ云ひ非政社さ云ひ兩派さも均く舊來の政友而かも榮辱禍福を十數年の久しきに爲し來りたるの政友が斯く相分裂するは予の如何にも心苦く思ふ所なれば何處迄も調停せしんさ　ひ夫にしては愛國公黨の名稱の下に雙方を合同するの外策なかるべし　は予が熟考に熟考を重ねて高知を出發するの砌既に決心したる所、去乍ら其事も徒らに空想に屬して行はるべくもあらぬ今日、退助が身に取ては骨を殺るゝよりも辛けれども斯くなる以上は詮方なし予も昨夜一ト夜考を凝らしたれども今は只諸君と相分離するの已むを得ざる事と決心致したり去り乍ら是れ事情の已むを得ざるより諸君と相分離するものにて固より主義の合ぬの何のと言ふ譯にあらねば唯能く退助の苦心の程を察了せられよ云々との事なりしかば大井其他の人々にも伯の決心斯くある以上は夫れにて宜し唯孰れとも明確なる御答を承はれば之に對する覺悟もある事なり云々さて袂を分ちて伯の旅館を辭し去りて諸氏が大阪に引返したるは午後一時半過なりしと云ふ（十九日の大阪每日新聞摘要）

偖て十九日午後一時大阪桃山の産湯樓にて舊友懇親會あり、出席者四百餘名にして非政社派の人は僅に一名なり、伯は德弘馬城郎氏をして趣意書を讀しめ、植木枝盛氏をして代り演說せしめ、愛國公黨樹立の事を申出し、決議は一切會席者に委ね、伯は神戸に歸りたり。同日及翌廿日間の出來事は左の如くなりたり。

舊非政社派（大同協和會大井憲太郎氏等の一派）は關東自由黨を組織し來年一月十五日以后東京に結黨式を爲すと。

同前小林樟雄氏の一派は關西自由黨を組織し、關東自由黨に氣脈を通じ、暗に板垣伯と好意を結ぶ事。

舊政社派（大同苦樂部員）は愛國公黨と改名するを非決し元の儘にて自由主義を發表する事。

青年の面々は別に青年自由黨を組織し最早發表したる事。而して極めて少數の人々即ち片岡植木兩氏等の如きは、愛國公黨を樹立する事。

●新誌

○文學と開化の關係

吾人は元來世に文章家と云ふもの、あるべきとを信ぜざるもの也、よし之ありと信じ得るも其の世に必要なるとを信ぜざるものにして、凡そ世に實益大利を爲すものゝ言行は自然の文章となると信するもの也、之を以て世に文學者など氣取りたる戲作を爲し若くは巧みに施流の文を作りて殺然自得するものを見る每に堅々ざるとなし。元良勇二郎氏が文第十一號に於て述べられたる「文學と開化の關係」には、世いよ〳〵開くれば文學の區域減じ文學跋扈の害亦減ずべしと云ふと、其の文學に對するの見解異なるのみにて主旨に至つては吾人と同論に歸す、世安んぞ實に據らざるの文あらんや、此如き文は即はち虛文にして、虛文の開化と共に減滅するは明白也、然れども眞の文は文明と共に益す進む、故に眞正の文學は開化と同作して進步するもの也。

○存娼論

廢娼論はいよ〳〵盛んなるに際し、種々の事條を以て反對するものあり、概するに是れ皆な存娼論なり、存娼論を唱ふるものゝ辭句を窺ふに殆んど眞面目なるかを疑ふべきもの多し、吾人は此如きを讀むだに嫁へり況んや之に對して愚答を寄するに於てをや、蓋し豕が眞珠を弄ぶを見るは何如にも心地惡し、輕率浮薄の徒亂りに眞面目を汚がす、道の爲めに深憂すべき也。報知新聞の如きは極めて鄭重に之を論じたり、主旨に至りては固より不同意なりと云へども其國家の大事を輕視せざるに至りては道の爲に謝すべきもの也、之に對し吾人が卑見を寄せたると左の如し、

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

廢娼論の事

報知新聞記者足下、昨日及今日の紙上に分載ありたる「女子賤業廢止論を許す」の御論詳讀致しぬ、因りて敢て一言仕り度は、事物の變革を急激に爲すまじきものとは甚はだ尤もなる儀に候へども、凡そ妓樓繁昌する間は世に之を需要するもの有之わけ故、苟くも妓樓自ら衰滅するの日に至らざる限りは何の年に之な廢止するとも其廢止は急激の廢革にて之れ有るべく、亦た此時に於ては元と妓樓に遊びたる者は必らず他の寄賓所に參ることゝ相成るべし、故に記者に於て后年何の日にか妓樓をして自衰自滅せしむるの其策あらば兎に角、不幸にして然るを待つに於ては幾年を相待つとも常に同樣の掛念を要すへしと存し候。一方妓樓を存するは姦淫を公許すると同じき儀なれば一方に妓樓を公認しつゝ、伊太……有之、たとひ全廢后數年間は寄賓……に考へ候。畢竟……たゝ者を撿査し有病者を診定し、た……取締るの責任あらざるものに候、……にも傳染する惡病を取締るの責務……殘る所は極下等の人物のみに候、此等は即はち寄賓界に徘徊せしめ、隨時寄賓取締を嚴にし、亦又其界に於て追々に之を減ぜしむる樣に盡力する積に候。記者足下、願くは、今日の遊娼者に妻あるものゝ過半、弊議あるもの多數、交際の爲にするもの非常に多き事實を認められ、妓樓全廢后の害弊左程にあらざるを推知あり、況んや妓樓公許は、國德上、氣風上、非常絕大の恥辱にして啻に宗教家道德家のみに非す政治家たるもの、亦極大慨歎すべき事柄に候ならずや。敢て一言を寄せ記者の再考を祈る。

◎女　報

○倉橋行子　特旨により正六位に叙せらる。

○赤十字社　去る十八日納會あり、來年の月番幹事左の如し、（一月）三條公爵夫人、岩倉公爵夫人（二月）毛利公爵夫人、伊藤伯爵夫人（三月）蜂須賀侯爵夫人、西郷伯爵夫人（四月）松方伯爵夫人、松平子爵夫人（五月）大山伯爵夫人、花房夫人（六月）鍋島侯爵夫人、佐々木伯爵夫人（十月）樺山子爵夫人、仁禮子爵夫人（十一月）清岡子爵夫人、末松夫人（十二月）櫻井子爵夫人、三條令孃

○悲驚すべきは　此時勢に西京に興廓會と云ふを起し、三河國西尾驛にては同地高等小學校の隣に遊廓を新設せんとする等の計畫あるよし。

○女生洋服　宮城縣尋常師範學校女子部の生徒は教場に出る際一切洋服着用すべきやう昨年の通常會にて議決せしが、本年は武田吉兵衞氏の動議により之を廢し着服隨意にすると決したり。

○滋賀縣會に女子傍聽者　のありしは去九日が初めてにて傍聽せしは金田村の小西みれ子の由。

○長崎の女學校　基督教主義の學校には活水女學校、スアルヂス女學校、英國女教師ゲードルギミ女學校ありて英學及普通學を授く縣立校には長崎尋常師範學校女子部あり私立校には柴田英學校女子部其他二三の私塾の如き者ありて英和學を授く聞く所に據れば長崎市に於て長崎女子技藝學校の設立を起したりと云ふ又聞く所に據れば當地在任の醫學士諸氏の發起にて授産學校設立の計畫ありと云ふ

○長崎の禁酒會　長崎禁酒會は往年レビット夫人來遊の際當地に立寄り該會設置を勸説せられしより始めて起りしものにして重に基督信徒婦人より成立つ役員等皆婦人にして毎月一回の演説會を開き居れり。

◎週　報

○官令　十一日勅令第百二十五號を以て陸海軍將校分限令中追加の件同第百二十六號を以て金庫規則を裁可公布せらる●十四日法律第十三號一錢紙幣引換期限條例中改正の件を裁可公布せらる●同日陸軍省令第十五號治罪法中改正の件……

○宮庭　十四日四日は内閣各國公使の覲見あり……

○政治　……

○二十一日外交……

○……銀行と云ふを設け資本金十万圓を以て開會せり

○銀行　一般……

○美術　日本美術協會は去る十三日上野櫻ヶ岡なる同會列品館に於て定會の納會を開きたり●日本園藝會は去る二十一日芝紅葉館に於て總會を開きたり

○教育　十一日東京府教育會は一ツ橋外帝國大學講義室に於て忘年會を開きたり●十五日大日本教育會々員は去る二十二日麹町區富士見町の富士見軒に於て忘年會を催せり

●新誌　福岡縣下の福陵新報は九日發行を停止せらる●千葉縣下の東海新報は十一日より紙面に改良を加へたり

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

廣告

●社告

本號はクリスマスの爲め特に發兌日を繰上げ、通例廿八日發兌の所を、今廿五日出版いたし候、よつて本年は此號を以て終末とし、來年一月一日次號發兌可仕候

來年初刊 **大附錄** 豫告

來一月一日初刊の女學雜誌には、數月前より用意致置候左の大附錄を添え、女學の進歩を表彰いたすと共に愛顧諸君年頭の御愛讀に供え申すべく候

詩 二十二首 **中島俊子**

ふる一葉 序一篇、和歌三十首 **下田歌子**

蘆の一ふし 新作小說 **花圃女史**

昔しがたみ 新作小說 **若松しづ**

新年の景 少女之圖 **跡見花蹊**

以上特に閨秀諸氏の錦瀾玉手に成れるものを輯め新年の來るを迎ふ、讀者もし之に接すれば、春未だ回らずして芳香薫し清風明月の潤界を潔ぎよくする心地し、如何に純潔なる文海の女性が胸中に滿つるかを知らん、願くは年窮りて歲月一轉するの日を待て。

●婦女**災害義捐金**〆切報告

兼て廣告致置たる如く、去廿一日即ち第三土曜日を以て募集〆切の期日と爲したるを以て、同日以前の義捐金を合計し、各地分配の割を算用したるに、左の如し、

和歌山縣へ 六八、八四七五圓　奈良縣へ 六七、八四七五圓
熊本縣へ 六七、八四七五　福岡縣へ 六六、八四七五
合計 二七一、三九〇〇

右に付、年内に罹災者へ向け送金の都合致度と存じ、右四縣廳へ向け送金及分配方委賴を申送りたり、追て其確收券を請けたるときは其旨を廣告可致也。

標準

每月廿五日發行　基督教の雜誌　宗教學術の雜誌　道德婦風の雜誌

標準の講談の上には名高い諸先生が現はれて雄辯を振はれます是非御聽なさい

標準の文壇には實のある議論や聖書に關する高尙なる文學や爲になる傳記が載せてあります

標準の爐邊、笑ふも泣くもこゝが眞實の所です朋友あり兄弟あり親子あり夫婦あり信者あり牧師ありて樣々の人が交る〲出て樣々の經驗を談ります

標準の書箱には諸方からの珍らしき手紙や内外の新聞が這入て居ます開きて御覽なさい面白いことゝ

◉第壹號◉ 目錄

◎講談●獻身…星野光多●祈禱に就きて…細川瀏◎文壇●渴仰の愛と活動の愛…植村正久●ゲリシムエバル二山音響の實地試驗…石本三十郎●長くもあり短くもあり…矢園子●基督降誕の準備…星野光多◎爐邊●基督降誕の年●クリスマスの星●東方の博士(三篇)●自然と天啓●單純と學術●クリスマスの賜物(よしえ)●松の木の面白き話(さち子)●大學者時計を食はんとす(三齣)◎書箱●標準發行を祝す…石梁居士●祝詞…長田時行◎廣告◎附錄●小教師●ベツレヘムとナザレの美麗なる石板畫を添ゆ

○定價一冊六錢六冊卅三錢十二冊六十錢全國無遞送料
○本誌は前金御拂込の上ならでは一切發送せず
○見本御入用の方は郵券六錢(五厘切手)御送附あれ

發行所 東京市麹町區富士見町二丁目一番地 標準社

日曜叢誌

第二號　明治二十三年一月一日發行　壹冊定價五錢、一年分五十五錢

右の如き雜誌を每月一回發行し基督教文學として有益なる論說●說教●史傳●雜錄●格言●教報●內外紳士淑女の寄書を揭載せんとす

第二號目次●明治廿三年元旦の感●聖公會祝日表●祝日●現異邦異祝日に關する教訓●保羅の改心●評報●亞弗利加の監督●御殿場の癩病院●社會に於る婦人の地位●埃及の旅人●雜錄數件●小供のため

發行所 麻布區飯倉六丁目十七番地 日曜叢誌社

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

通信女學新刊

○御婦人の胸中

問　一年の計事は春に在りと云ひ升、此の一年は如何しましやうか。

答　何よりも先づ少し學問を爲さつては如何です。

問　學問は勿論したいのですが、此齡では學校にも參られませず、獨りでは稽古も出來ませぬゆゑ當惑致し升。

答　ナンノあなた、夫には至極よい手立があり升。

問　學校にも行かず、教師もなくて、學問が出來升か。

答　其の手立は唯一の、通信女學を御覽なさるのです家の用事を爲ながら、獨りて稽古が出來ます、一年御奮發なさつたら立派な學者にお成なさりますよ。

今年學ばずして來年ありと言ふと勿れ、今日學ばずして明日ありと言ふと勿れ。過る一年は夢の如し來る一年いざ勉强せん。人生れて學者なし若し學ばゞ何人も學者となる。萬物の靈たるは智慧あるに由る智慧は學問なき人に宿ることなし。機會は額に毛ありて後ろには無き頭の如し、一と度び前を過ぎしむれば復た捉らへ難し、決心は今日、今日に在。

學問隆盛の今日、女學の進歩一と方ならず、凡そ年頃の娘君にして奮發學に就かぬは最と〳〵少なく、既に一家の妻となりし方にても晩學の勉强をさ〳〵年少の人に劣らぬも多し、概して何處の婦女子も皆な學問と云ふことに心掛け凡そ此心掛なきものは當今の女德に欠けしやう思ふに至りぬると明治の代の恩澤にて有がたきことと云ふべし、因りて何處にも女學校の設けあり何處の娘君も玆に入學して日々の進歩目覺しきことなるが、既に妻となり母となりて一家子女の掛念ある方々は最早家を出て通學することも出來ず又家に教師を引て教を受るも甚はだ手數なれば今日の時世に斯る御婦人のみ此儘無學に終るべきかと心配する人も少なからず、此類の御婦人は何か家に在りて獨り稽古する工夫なきか又獨學に便利の書物はなきかと屢ば問合せあり、吾社嘗て女學雜誌に附して通信女學を出版したるは全く此類の需に應ぜん爲めにてありしが、女學雜誌の改進と共に此の附錄を中止し追て別冊に仕立て發兌すべき積兼て廣告致し置ぬ、今や其準備相整ひたるに付來年一月より左の方法によりて毎月講義錄一冊づゝ發行可致也。

毎月二百頁程の講義錄一冊宛出版し毎日四枚(八頁)宛讀み一月にて終る筈の事

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

毎號教授の科目、枚數、及敎師左の如し、

科目	一年枚數	一月枚數	敎師
萬國史	四五〇	三八	明治女學校教諭 木村祐吉
日本歴史	二〇〇	一六	同 鈴木弘恭
算術簿記	一〇〇	八	同 磯貝由太郎
理化學	一〇〇	八	農學士明治女學校教諭 寺尾熊二
生理學	一〇〇	八	同
動植學	一〇〇	八	同
作文法文例	二〇〇	一六	鈴木弘恭
歌詠方	五〇	四	同
和文讀本	三〇〇	二四	同
漢文讀本	三〇〇	二四	明治女學校教諭 八木兼辰
家政學	三〇〇	二四	醫學士 三島通良
衛生、育兒、看病、料理、及裁縫女禮を合す			
圖入地理	一五〇	一二	寺尾熊二
英學	一〇〇	八	山川新二郎

右諸科目は何れも獨學に差支なき様記るし置くと雖ども倘疑はしき條ありて質問を寄する者には各科の敎師より夫々鄭寧に應答すべし

一年にて右諸科目を終る、此丈けを心得れば普通一と通りの女學は學び得たるとにて文明なみ〳〵の交際に差支を生ぜず若し此丈けをだに知らねば今后二三年の内に婦人仲間中以上の交はりにも列し難きことあるべし。

女學雜誌は其時々に切要なる女子の心掛を論じ通信女學には永久女子に入用なる學問を敎授す其二つ乍ら欠く可らざるは食物と着物の如し、女學雜誌は四季折々の必要を足し通信女學は年中同様の必用を足す、故に二つを合せ御覽にならば一層に便利なるべし、編者も亦其心掛にて編輯し相合せて錦と花との如く爲さまく祈る、左れば右二つを合せ購讀の人には特別の割引を可致也。

通信女學一冊前金三十二錢(無郵税)、半年分前金一圓八十錢、一年分前金三圓五十錢、一切前金に非れば發送せず。

女學雜誌一冊六錢、十冊前金五十八錢(府外は此外に一冊五厘宛の郵税申受く)、而して通信女學と双方購讀の方には各一割づゝ相減じ可申也。

明治二十二年一月十日第一號を發兌し、二月十日第二號を發兌し、以後毎月十日に出版して翌一ヶ月中の科目となし、其十二月に至りて全科卒業となす。

申込所 東京富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

●東京府會廢娼建議案速記　佃與二郎　速記

午後四時十五分開會出席議員四十六名

議長芳野世經氏曰く是れより曾て五十一番より建議と爲り居る彼の建議案の爲めに議事を開くべし。

五十一番小島官吾氏曰く豫て本會に於て陳述致したる上に印刷に附して議員諸公の御手許に廻し置きたれば之を再び發議するは甚た諸君の御耳底を汚すの恐れあれば此事に就ては再び述べざるべし併し彼の第四段の言葉を殘し置きたれば之をば一言致さゞるべからざる時宜なるべしと考ふるにより聊か申述ぶべし之を述ぶる前に於て少しく印刷の誤りを訂正し置くべし(正誤の廉は略す)偖て其の一言したしと云ふは他にあらず既に當市部會なり郡部會なりに於て彼の娼妓に關する梅毒檢査費と云へるを議了したれば今日此の建議案を議するを無益の如くに考へらるゝの議員も無きにはあらざるべしと信ずるがソハ別に之に關係せざるとにて疑を以て事を決議するは甚だ恐れ多き事故兎に角自分の論結を確め置くべし則ち自分の論決と申すは府縣會規則第七條によりて府知事に建議したる上實に今日に強て之を廢せんとを望むにはあらで今後娼妓營業を願ひ出でたる者は一切之を許可せざる事而して其の契約の滿ちたる者は警察令通り再び之が營業を爲さしめざるに在り左すれば二十一年度に於て許可となりたる者は二十四年に至らば全く其營業を絶つべく而して今年度に許可を得たる者は二十五年度に至らば全く其跡を絶つを得べしと信ず冀くは滿場の各位に於て相當の贊成を以て此建議を成立たしめられんとを望む。

五十八番角田眞平氏曰く此の間の御意見とは少しく離齬する所ある如ければ一寸御尋ね申すべし娼妓と云へる者は三年を期して其後廢業せしむるが從來の規則なり就ては五十一番の御意見は從來の規則通りと心得て然るべきや斯くの如き法に依る時は今後とても矢張り同樣の營業者を生ずる譯にて結句我々とは反對也本員等は廢娼論者にてはなけれ共事實の上に於て次第に廢し行くべき意見を有し居る也斯くては娼妓は無てならぬ樣になるべしと云ふ果して左樣に了解して宜敷や。

五十一番小島官吾氏曰く四十八番は未だ本員の述べたる所をお聞き取り無かりしとと思へり之を　するに本員の意見は第一新に出願する者に向ては許可せられざる事第二三ヶ年の契約を終りたる者は如何にしても再びは許さずと云へる二ヶ條なり。

五十二番作直之助氏曰く本員は五十一番の建議說が問題となる前に當て一言したいと思へるとあり本員は此事に就て御討議あつて今晩玆に可否を決する如き事は望まない又こうゆふ樣の事に就て彼れ是れ論辯するは議會の對面上にも關係すると思へば餘り長く論辯し居るとを望まず斯く云はゞ折角五十一番の提出された議を消滅されるかといふに是れ又然らず而して其之を議するの前に當て僅かの間諸君の御耳を汚し度思ふとあり元來本員は議場に於ては餘り發言するを好まざる者なれども斯かる議題に對しては隨分意見を有し居る者にて則ち公然たる娼妓の如きは之を全廢したしと思へるなり然れ共議員が之を左右すると云ふは如何の者か願くは全國一時に同樣の進路を取り度しと思ひたれば議會の中よりは寧ろ衆に向て訴へ其素志を達したしと思ひ居れり然るに本年斯くの如き意見を五十一番より提出されたれば其歸着する所の同じき爲め贊成は致し置く也此席に就き本員は前回は欠席したれど今はまづ三十一番須藤時一郎氏幷びに六十一番田口卯吉氏の兩君に向て尋ねんと欲する事あり即ち當議案は兩君の協贊を以て今日之を議するとゝなりたれば抑て本員が清潔を逞ふする所にては之れに列なる清潔なる諸君潔白なる各位は決して廢娼と云へるとに付て反對せられざるとは余が堅く信ずる所なり然れ共如何にして之を廢するかと云へる問題に至れば全體に於ては同意なれども或は其枝葉の爲めに反對の地位に立たざるべからざる事あるべしと云へり或は從來の習慣よりして考へ或は市府の經濟よりして考へ種々の點よりして考へざるべからずと云ふ以上は唯單純なる道德論を以て之を決するとは出來ざるべしと思へり隨分恐しき習慣なりとて久しき間成し來りたる事物は一朝廢去するに於ては余程に深く考へざるべからず若し眞實に廢するならば充分なる調査をも成さゞるべからず假令ば馬の荒れたる時に急に之を止めんとすれば或は馬より落つるが如き結果のある者にて之を引止めるには均しく順序を踏まざるべからず今や我府會の廢娼に於るは恰もあれ馬の乘り手の如き者ならん乎故に本員は漸を追て遂に之を撲滅する樣に何處迄も鄭重を以て之を處置したしと思へり既に群馬縣に於ては之を廢せり而し群馬と東京とは餘程異なる所あるべしと思ふ則ち群馬は十五年度に於て一度其首を縊りたれば本年廢したればとて一方の苦情は少なかるべし然に東京府は之に反し今急激に之を廢する時は　の經濟上にも營業者にも非常の不都合を來すと云へり諸君も本員も倶に一府の經濟を預り居る以上は鄭重の上にも鄭重を竭し啻に議論上に於てのみならず事實上に於て尤も深く考へざるべ

からず右の通りに考へ來れば五十一番の述べられたる法方は果して定數か否や本員等に於ては未だ其法方の可否を決し難ければ賢明なる諸君に於ても定めし容易に其可否の斷定は下されまじと信ず之を背更ゆれば輕々しく斷定を下されぬ方々が却て考の緻密なる方々なりと信ず故に法方論に於ては後段に廻して貰い度し何となれば若し誤て當議場が此建議を否決したる時は諸君の御心中も全く反對の決を爲さゞるべからず五十一番より折角差出されたる議題が否決されたとあれば府會の多數諸君は之を存すると云ふの御議論なりと云ふのかたむきを生ずるの恐れあり而して其御心中を正せば全く廢娼論の贊成なるゆえ議決は全く反對の結果と相成るべければ願くは本員の考の如くに致されたしといふは諸君がこれに就て今後適當なる方法を充分に御考へに成り我々も盡し得るの力を以て熱心に盡力致し度く思へば玆に調査委員を撰び七名なり五名なりの委員を設けて來年の十一月迄に適當の法案を造り出す樣にしたしと思へるなり要するに五十一番の說を緻密に鄭寧に考へたる上にて方法を設くるが可なりと云ふことなれば先づ其理由に依て其議決あらんことを望む。

四十四番青木匡氏曰く五十一番より廢娼の建議を出されたる時余は旅行中なりしかば余は當時の模樣の委しくは知らざれ共兎に角五十一番は御鄭重にも其意見を印刷されて各員に分たれたり左れば此席に列する諸君は本案に就て充分の考を盡さるゝ丈けの時間はありしことゝ思ふ本員も廢娼の一事に就ては多少の意見を有するものなれば早く之を問題とすべきや否やを決しられて然る後に互の意見を陳述する樣に致し度く思ふなり。

議長芳野氏曰く勿論の事なり尚五十一番に聞て置き度きは建議するといふは內務大臣に向て建議さるゝの御見込にや但し府知事に向ての御見込にや。

五十一番小島宜諧氏曰く府縣會規則第七條に依て府知事に差し出す積りなり何となれば本問題の如き事は府縣知事の適意になり居りはせぬかと思はるればなり。

議長芳野氏曰く府縣會規則第四條に依て此の建議に二名以上の贊成あるや否やを試むべし先づ之を議題として議場に入るゝを許可するといふ說の方は起立あれ。

起立。十八人の外總起立

議長芳野氏曰く然らば許可することに決せり。

四十五番　藤正與氏曰く之れに就て本員の考へもあれども之を廢すると同時に營業者に於て非常の迷惑を感ずべく、よし迷惑の一點は關ざるにもせよ社會一般に其影響を感ずべきは必然なれば先づ五十二番の說を贊成して調査委員を設けられん事を望むなり。

十七番宮本鋼三氏曰く五十二番を贊成す其理由は陳述致し度思へど餘りに長くなるべく調査委員を設けらるゝならば別段之を述ふるの必要は甚れなしと信ずるを以て單に五十二番を贊成す。

四十八番角田氏曰く本員は調査委員を設くるに及ばず之を延期さるゝが適當なるべしと云ふの議論なり若し日本の風儀を考へらるゝ人々なるに於ては決して此議會に於て議すべきことにはあらずと思ふ騷ぐ者よりも騷がぬ者の方が從來其實地の廢娼を成し居るなり然し之を東京にて廢してしまい之を全廢するが名聞にてあるならば宜しけれど一概東京にて廢せしならば必らずこの近縣に至りて其業を營まるゝに相違なし斯くては近縣へ迷惑をなさしむるものにて日本の風儀を矯正せんとするものゝ成すべき所にはあらざるべし即ち東京にて娼妓を成したる者が他縣に行きて同じく娼妓を成すと云ふに於ては果して如何あるべきや當局者も此事には餘程困難を感じ居らるゝと聞けり然らば一國全躰が進み日本全躰が進むにあらざるよりは其論は到底行はるべからざるものにて決して妓樓を廢したればとて國風を矯正するの運びには相成るまじと思はる然に目の當り國會は開かれんとなし居るが國會にても之を決定する權利を有し居る事と思へり而して一府縣の人が之を調査し之を議論する丈けにては必ず徒勞に屬することゝ思はる調査して廢するとならば如何東京に於て之を廢すると云ふのが考へ通りに廢すとならば如何東京許り他縣が廢さゞるに於ては如何群馬縣の如きは十五年度に於て一端之を廢すと決し縣知事は廢さぬと指令し二十一年度には縣會は廢さぬといひ今年に於ては之を廢すと云ひ知事も又廢娼すべしといふ如斯き事は國風を矯正するを得べきか國民安堵すべきか其實際に於て本員等は往々服し難きものあり苟も國風といふ以上は一般に善くならねばならぬ我々の考ふる處にては來年に到らば幾分か日本國の內情が知れ渡りて調査することも出來得べく殊に假令ひ今日之を調査するも徒勞なりと信ずれば來年を待つが宜し日本全國の事情を明めたる上ならでは容易に斷定し難き問題なりと思惟す。

五十九番松尾清次郎氏曰く本員は廢娼說を主張す來年に延すにも及ばず總て斯かる事は府會にて議し得まじといふの考なり租税に關係する事柄なれば議し得るといふ人もあらんが營業にもせよ同じく之れ一の營業なると其營業を廢するといふ

事は議會は議し得まじと思へり若し之を廢することを得と云へば藝者も廢さゞるべからず俳優役者も廢さゞるべからず其他彼の營業税に係る事は凡て議會に於て存廢の議論を成し得べきが余は決して成し得べからざるものと思へばすみやかに廢案せられんことを望む。

六十八番桐原捨三氏曰く本員も五十九番と同様に廢案説を主張するものなれ共敢て五十九番の如くに議標なしといふの考へにはあらず其他の主義より廢案せざるべからざるものと思へり抑も此の問題の社會に顯はるゝは實に喜ぶべきことにて一箇人としては賛成するなり故に道徳の上よりして漸次に其惡習惡弊を矯正するは至極結構なれども我々が地方税の支出徴收の仕方を議する一己の代議士として此の議場に議決する場合に於ては則ち廢案といふ考なり其理由は一同の風儀の上制度の上の考はよし議決するも鉄砲丸の使と同しく一度の建議に止まり我々の本職とする所は地方税の支收其權衡を得たるや否や公平の税率なるや否やを議するが本務なり假令ば娼妓の如き者は廢して税を採らずとなし一方に於て藝妓の税を徴收するは果して公平なるべきか又藝妓を存し置きて同し種類の營業の娼妓を廢するハ地方税經濟に於て果して得策なりや否や公然と營業し居る者のみ廢して其内實娼妓よりも一層甚しき事を成し居る者を放任し置くが當を得たるや否やよし娼妓を廢しても英國ロンドン杯に於ては開化を以て驕て居りながら二七万の地獄ありと聞けり外面の粧飾は体裁宜きやは知ざれども其實際に於てハ弊根を斷つこと難かるへしと思はるさりながら兎に角に如斯き方が社會に出つるは喜ばしきことなるのみならず又一の大問題にてあるなり然るに地方税の收支を議する者が輕々に廢娼といふ事を議決するは眞の職分を盡したるものにあらずといふこと即ち府會議員が府會議場に之を議決するは反對なれば五十九番と同じく廢案説を主張するなり。

九番神田長郎氏曰く五十二番の言はれた通り廢娼論其ものに付ては至極賛成なり如斯ものは社會より除くといふ說は賛成なれ共も廢する方法に就ては議論がある則ち如斯き法律より成り立て居る議會より持出して議決し決議の上に建議し若しくは政府の力を以て一片の法令の力を以てやめさするといふ様なる方法は甚た宜敷からずと思ふ實に娼妓などゝいふ者は政府に於ても廢して可なる者ならば無論廢されてしまうに相違なし政府に於て置かぬ共宜敷きものを何もかまわず滅茶苦茶に置くといふ事はあらざるべし既に斯く政府にて廢せざる以上は日本は未た左様なる時機に達せざることゝ思ふ然し廢娼と云へることは至極宜敷事にて其方法に就て矢張り本員等の考へもなきにはあらず則ち一地方に於ては幸ひに未た妓楼のなき所あるやも知れされば右の如き處に於て盡力し其縣下に廢娼論を唱出し次第に續きへ續きへと廢唱して行くが宜し何れ繁昌なる地があとにのこるに相違なけれど其府の如き處に至つては餘程の後ちに於て他の府縣に則り始めて政府に建議致したら廢し得らるゝやも知れず然し今日にては到底コンニヤクにて釘を打つ程な事なれば時期未だ到らずといふなり然し時期の到らざるは我と力を盡して漸々に進め行の外致し方なし唯今日之を建議するは早しといふが本員の意見也。

十七番宮本龍三氏曰く四十八番六十八番等の御說ありたれど若し正理公道を以て論する時は決して當議會に於て云ひ得ざる事もなく全國の首府たる東京が不潔不正より成り立つたる營業税を採るべからずと議決することは敢て議會に權利なしとは言はれまじと思ふなり又來年に於て全國の人が寄り集りたる上にて之を廢するが宜しといふの說もありたれど玆に七十五人の議員集りてさえ容易に議事のまとまり難きに全國の多数なる集會に於ては益々困難を見るべしと思ふ故に當議會より委員を設け臨時會を開きて其利害の報道をするか但しは十一月の通常會に於て報道するとも孰れにしても五十二番の意見通りに致すが善しと考ふるなり四十八番杯の御議論は立派にして如何にも尤もなれど裏面より之を考ふれば廢娼論にはあらずして存娼論なり第一本員が之れを廢すべしといふの要點は東京が日本の首府たる都會なる上は全國の書生が學問する所にして是等の書生が他日其學を成就して其國に歸らんとする者が如斯き者のある爲めに多く資金を費し身を持崩すが多きなり東京に參り學問を修め歸りて立派なる人物にならんとする者が田舍に居るよりも却て惡るくなるといふは必竟此地に營業を許しあるが爲めなり夫れに就ては衛賢の行はれぬ様に隨分取締の方法ハ有之べく五十二番の言はるゝ通り委員を撰んで後日の議會に報道する様にいたしたし。

二十五番浦田治平氏曰く當議場に於て廢娼と云へる事を議するの權利ありや否やと云へる五十九番の御意見ありたれ共私は利害を議する權利ありといふ上よりは東京府知事に於て建議を容るゝと否とは暫く措き議權がないといへるは餘り府縣會規則第七條の解釋を狭く見られたるものと思へり偖て之を議するといふに就ては余は四十八番と同感なり發題者なる五十一番の說にては東京府下許りにてはなく之を日本全國に及ぼすといふが御趣意の様なりし娼妓を公許しては鉢際上に面

白くなく風俗を敗ることもありといふそれ等の點に於ては我々も御同意にて其醜きを知らざるにもあらず然れ共困難の久しき今日突然之を廢すは實に當を得ずと思はる存娼論者といふにあられど營業税を出して東京府下の人民の中に有るものなれば幾許かは將來の事をも考へざる可らず當府會に代議士となつて出席し居る以上は府民の利害を議する事に着目せざるべからず勿論貸座敷なる者は惡しきものに相違なし相違なけれど府會は之れより相當の税を徴集し地方經濟の財源となし居るなり即ち本員も公許を廢する漸進論者なれど五十一番の報道にては今晩こそは漸進論者の如くなれ先夜印刷物を廻さるゝ迄は急進の議論なりしが急進論には如何共贊成し難し且彼等の營業權を奪ふは代議士として實に忍びざることなり東京府下のみにあらず廣く染風を全國に波及せんとならば東京の如き小さな所になしても之を全國におし及ぼす事は出來難し他の模範になるかも知れど東京府會にて議決したれば此の縣下にても斯く議決せればならぬと云ふとは出來ずと思はる故に一國の美風を遺るには四十八番の説と同しく帝國議會の開くるを俟ち其時に議するが順當なるべしと思ふ府知事が之を認可さるゝや否やは知られど假し東京にて廢しても神奈川に往き千葉に移りて營業するといふが如き事ありては到底之を一掃し去ること能はず故に先づ其根本を修め外國に對しても恥かしからぬ迄に風俗の進歩したる上ならでは容易に之を行ふこと難かるべしと信ずるなり。

五十一番小島官吉氏曰く該案の爲めに諸君を煩はすは誠に謝するに詞なき事なり然しながら深く私の信ずる所を以て茲に提出せしものなれば私の爲めに暫時御容赦を乞ふ隨前反對の重なる説は明年帝國議會があるといふ事又地方税を議する所では之を議する權利なしといふ事なり元來帝國議會が開けるとしても必ず直ちに如斯き事を議するや否や四十八番廿五番と雖も保證はなされまじ又近頃る四十八番の御説とも思はれず此の議會に於て決議を以て此の建議を成すに帝國議會の爲に何の憚る所あるべきや更に私は明年議會の開くるといふ爲に此の建議を打破るべき一の理由を認る能はず又議すべからざる事なりといふの御説は只今二十五番より陳ぜられたれば述べざれ共一府縣のみにては全國に通ぜずといふの御説は恐れ入つた御説と思ふ間より我々が全國に向て何の權利があり義務がありませう一府縣のものだから當議會の權限に從て該案を呈出せしものなり即ち全國に通すると否とに拘らず一府縣の利害如何に關する故に述ぶるなり左れば全國に通ずると否とを以て駁論さるゝは甚しく御門が違ふにあらずや又政府が有害と認められなば何故禁止せられざる乎政府は疾くに之を禁止せらるゝ筈なりとの九番の御説も驚き入るの外なし政府が心付かず共我々が心付けば充分意見も述べ得る事にて既に之を許可せられて居る故九番にも左樣御承知を願い度し又廿五番は本員が提出したる説は前後に急進と漸進との差別ありとの説なりしが夫は二十五番がマゲては解釋なされしにて本員は論旨の初めにて御斷り置きたる積りなりし即ち結論を後日に廻したる丈けにて以前陳述致したる所と更に變更も無之れば是又御安心を願いたし。

議長芳野氏曰く最早採決すべし五十一番の建議に對して三説あり即ち五十弐番の調査委員を設くべしと云へる事四十八番の延期して帝國議會の開らくるを俟つべしと云へる事五十九番の直ちに廢案すべしと云へる事先づ五十九番の説より順序に起立を煩すべし五十九番に同意の方は起立あれ。

起立二十六名、

議長曰く過半數に依り廢案に決す。

此日議員總數七十五名の中欠席者廿九名あり、田口卯吉、犬養毅、箕浦勝人、益田克德、大岡育造、高木正年、等其他廿餘氏は皆な欠席員の中にてありし、而して壯年廢娼議會の人々が各府會議員を訪ふて其説を叩きしときには、此等以上の諸君は悉とく廢娼論贊成者にてありし由なるに今日不幸にして皆な欠席ありしは千歳の遺憾と云ふべし元來開會式は來廿四五日にて其節此議の討論あるべき豫定なりしに俄かに事務捗取り即はち廿一日に於て之を議するとなり議員中止を得ず欠席したる分も少なからずと云ふものあり。

廢娼演説
妓樓全廢

小本二册 各五錢

島田三郎 植木枝盛 同席演説
巖本善治著

我この世を何に譬へんや、童子街に坐し其侶を呼て、われら笛ふけども爾曹おどらず哀みをすれども爾曹胸うたずと云ふに似たり。（聖經）。

人醜くきものを見、直ちに顔を外むけたらば、其人醜くきものを好まず美なるものを愛するなりと思ふは誤まりなり、其醜物を一見するや直ちに之を打破攻撃せんとするの氣象あるに非らずんば、眞に善美を愛し醜惡を悪むものと云ふとを得ず（チヤーレス、キングスレー）。

島田三郎○植木枝盛

廢娼演說

一冊五錢○百冊三圓半

巖本善治著

妓樓全廢

一冊五錢○百冊三圓半

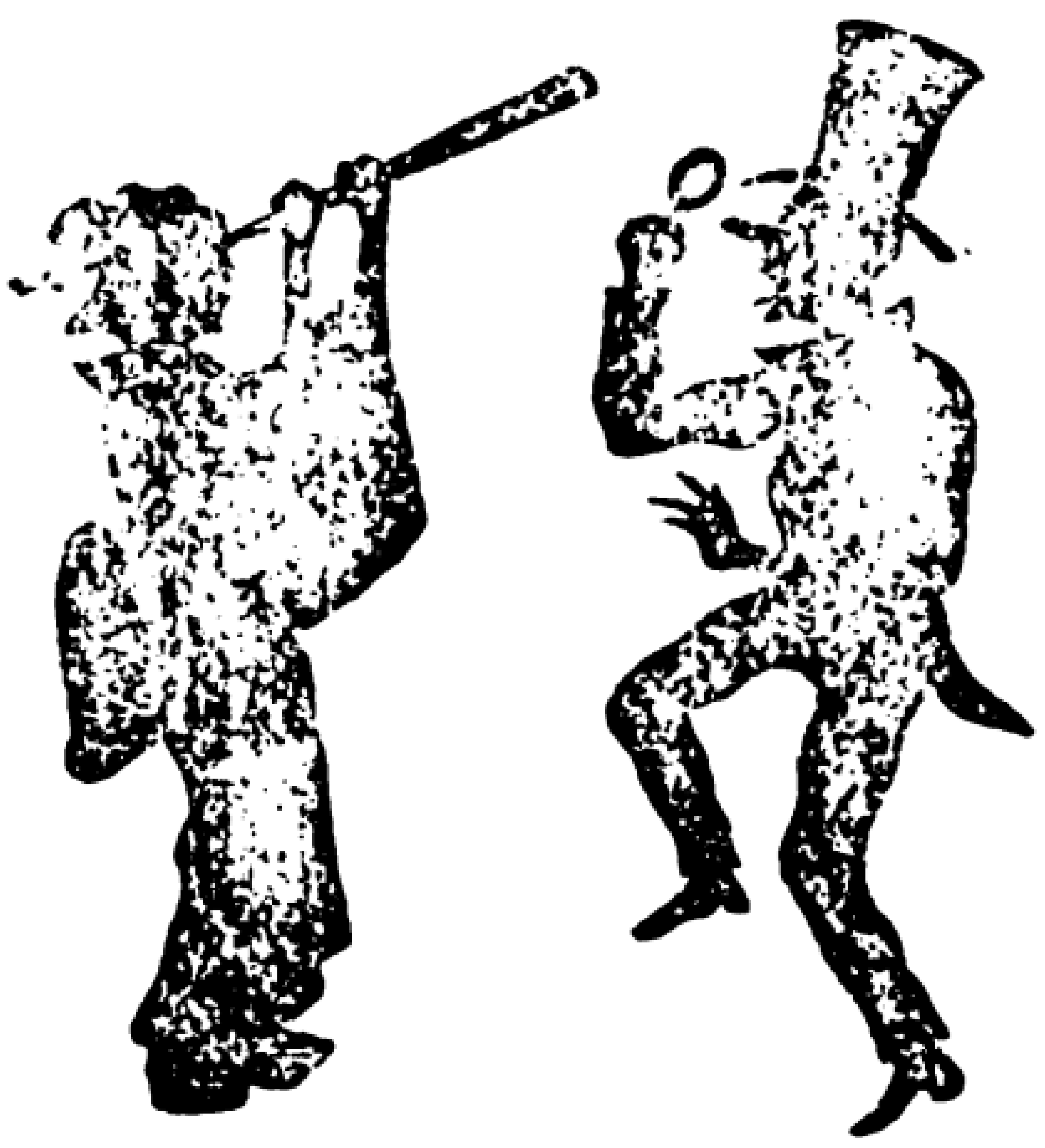
植木枝盛著述

東洋之婦女

●中島とし君 ●河田さと君 ●有田さわ君 ●長崎きよう君
●佐々城豐壽君 ●淸水とよ君 ●富永らく君 ●大作せい君
●大谷[illegible]君
●吉松ます君 ●木岡かつ君 ●土佐女子懇親會
●千頭きしお君 ●平井道世君 ●中村さく君 ●山田たけ君
●村雨のぶ君

十六女史及[illegible]

是乃ち植木先生が識見眞實の眞心と不偏とを以て研究の思想と經驗とを以て○男女交際の現狀○原因○結果○國家の弊より○婦人社會の害○女子將來の望等において信[illegible]たるものなり實に[illegible]婦女風改良の指針案内者なり



○定價四拾錢全國郵送無料 ○大賣捌所東京神田小川町集成社 ○其他賣捌各書林

日本赤十字社錄事（接于前號）

委員長以下各々席に就く玆に會する社員三百三十名（外に招待せし客員十五名）なり滿坐肅然奏樂白根委員長は本會の祝詞を述へ尚本社長より本會に寄したる電報の祝詞を社員一同に報し尚出席社員は謹て兩陛下の萬歳を祝し奉り併て日本赤十字社の益々隆盛を祈るとの本社長へ返信すへき旨を報す此間奏樂本會庶務の報告委員部を支部に改定するの組織細則案並に社員名簿を頒付し本年八月以前に屬する保貯金出納報告を了す此間奏樂其式を了る白根委員長其他數名の演說あり午後五時同所第二號室に於て社員一同祝宴を開く余興には能狂言踊等を催し午後九時歡を盡して退散せり此日縣下數十里外より參集せし社員も多く其に相和して一堂に會し談笑して社旨擴張に外ならざるはなく頗る盛況なりし

（付記）當日委員長其他に於て赤十字社の旨趣を演說せられたるに會員中一層の感情を惹起せしものゝ有之樣見受けたりしか越て本月一日に至り松山現米取引所（應役は皆正社員なり）より感動の餘り戰時材料器具費の内へ金五拾圓の寄付を申出たり尚當日總會費の中へ金五圓を大阪支部正社員備中傳助か其他球燈三百個を松山現米取引所より寄付せられたり

禁酒御下宿廣告

赤心亭ハ叮嚀親切ニシテ萬事淸潔ヲ旨トス
赤心亭ハ飲酒セラルヽ御方樣ハ斷然謝絕ス
赤心亭ハ錦衣歸鄕ヲ將テ勤學スル人ニ適ス
赤心亭ハ女學生諸姉ノ爲ニハ特別ニ監督ス

牛込新小川町壹丁目壹番地 禁酒下宿赤心亭

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三年本科四年にして別に二箇年に涉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす每科受持の教員は孰れ○○○も熟達の者あり然して本校の教授は實に完然なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地 東洋英和女學校

●美人とならんと欲する者は注意せよ

佛國新流行の化粧藥法●貴婦人淑女社會の最必要法

男女
肌膚を艶滑にし膚理を軟密にする一大法

文明社會交際場裡の人士は已に居住、衣服、帽、靴、等を清潔無瑕ならしむる責任あり况んや吾人天然の皮膚に於て清潔無瑕の美稱を受け得ざれば人たるの品位に於て劣り陋しきの辱を免かれざるべし、身躰膩垢の外殊に皮の膚瑕瑾とも稱すべきは顔面手肢の粗糙、口唇の胝破等にして汚垢の如きは石鹼にて一朝に洗ひ去り得べきも以上の瑕瑾は平生皮膚の攝生に注意し寒暑の氣候を問はず怠らず手を盡して之が回復の道を求むるにあらざれば清潔艶美の場合に至り難し彼の西洋婦人俳優の雪膚氷肌の皎潔潤澤艶麗なるは豈に徒爾にして得たるものならんや常に肌膚攝生法に注意するの結果たるや明かなり本館此護肌法を發明せんと西洋大醫に計り學理に基き多年種々經驗苦心して漸く今回奏効確實なる前掲新法を發明したり此は泰西貴婦人の專ら賞用する「コールドクリーム」及び「ポマドンヌール」の製法を基とし且つ本館の經驗せし結果とを折衷せし新法にて此法を施すときは男女共肌膚を艶滑にし膚理を軟密にし如何なる粗糙質の皮肌も忽ち艶美軟密となり胝、霜燒、垢切、等は決して發せざるは勿論既に發せしものは直に全治し艶麗なる雪膚氷肌となす特効確實なるものあり製品は高尚なる香氣を有し皮膚に塗用して無色透明なり依て有志の方は速に傳習實施して艶膚麗肌の譽を得取せよ●但し此新法は世上にありふれたるおしろいした或はりすりん類の如きものと同日の比にあらざれば玉瓦混視することなかれ●此法に要する元質藥品は各地都會にて求得らるゝ事●此法の傳授謝金は壹圓五拾錢の規定なれども今や時季嚴寒に際し都鄙人士一般最も此法の速急必要の場合あるを以て普及を圖る爲め大特別にて本月卅一日迄の傳習申込者に限り謝金額三分の一即ち**金五拾錢**にて着金の即日詳細確實なる傳授書を郵送すべし尤も期日後は直に定額謝金壹圓五拾錢に復する事●郵便小爲換は神田郵便局宛取組の事●謝金に切手代用は三割増しの事

實地經驗奏効確證●佛國「ミエル、ブ、パリ」の藥法

男女
全體の色を白くし且體美ならしむる新法

此法の傳授謝金は壹圓五拾錢あり

本館の詳細なる各種傳授科目規則書を望む方は郵券四錢を送らるれば直に送呈す

新發明各色改良染液正法及理化學的醫學的應用諸發明新法傳習所

東京神田末廣町十番地

日本授産館

館長野上三省

顧問員英人エフヘンリー

●粗糙質の人は必ず廣告をせよ熟讀せよ

定價	
一册。	六錢 郵稅。 五厘 (但府內無郵稅)
十册。	五十八錢 郵稅。 五錢 (同前)
半年分	一圓四十三錢 府外は 一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢 府外は 二圓八十六錢

東京麴町區富士見町二丁目一番地
發行所 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 森田豐

遞信省認可

女學雜誌

一冊六錢

各土曜日發兌

第百九拾四號

當府内無郵税

郵税五厘

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY